Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-07-15

アジア人留学生・就学生の生活と文化変容(2)

浅野, 慎一

(Citation)
神戸大学発達科学部研究紀要,3(2):147-176

(Issue Date)
1996-03

(Resource Type)
departmental bulletin paper

(Version)
Version of Record

(JaLCDOI)
https://doi.org/10.24546/81000223

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81000223

神戸大学発達科学部研究紀要
第3巻第2号　1996

アジア人留学生・就学生の生活と文化変容（2）

浅　野　慎　一

-A Sociological Study on Asian Students in Japan:Their Life and Acculturation(part 2)-

Shin-ichi　Asano

第2章　留学生・就学生の学習ー労働ー生活過程

第2節　労働過程と諸問題

さて次に、アルバイトの労働過程とそこでの諸問題を見る（表2－4～6参照）。

中国人国費留学生は、アルバイトをしていない。しかし、中国人私費留学生・就学生には、多くの場合、アルバイトが不可欠である。また韓国人・インドネシア人留学生、及び、マレーシア人就学生にも、アルバイト経験者は少なくない。以下、それぞれの特徴を明らかにする。

第1項　中国人私費留学生

まず、中国人私費留学生である。この中でも、国立大学の理系大学院生、文系大学院生、私立大学生、そして専門学校生で、それぞれアルバイトの労働過程は異なる。

理系大学院生には、国費留学生と同様、アルバイトをしていない者が多い。かつてサウナサービス・ホール・引越屋など単純労働に従事した者もいるが、それらは、「時間の浪費」・「仕事がきつい」ことを理由にやめている。そして現在は一部に、水墨画講師やコンピューター・プログラマー等、趣味・専門を生かした仕事をする者もいるが、それも週約4時間と短時間である。

これに対し、文系大学院生の多くは、日本語能力を生かし、中国語講師のアルバイトをしている。彼らは、来日直後は、ホール・パン製造工・コンビニ店員・ホステスなど単純労働に従事したが、その後、多くが中国語講師に転職した。中国語講師は、比較的短時間で高所得が得られ、中国に関心のある日本人と出会う機会も多く、日本語の一層の上達にもつながる等のメリットがある。彼らの労働時間は週約9時間、それによる月収は約68000円である。ただ彼らにとっても、中国語講師の職を確保し、それだけで生活費を稼ぎ出すことは容易ではない。そこで彼らの中には、それと並行して、ウェイター・ホステス等として働く者もいる。この場合、日本語に関心のある彼らとしては、「特殊な分野の専門用語の勉強」にはなる。しかし反面、低賃金・時間の浪費が大きな問題となる。

私立大学生は、中国語講師や薬品研究、太極拳講師等の専門職、及び、測量事務・旅行業務・製本コピー等の一般事務職についている。彼らもまた、来日直後は、ホール・パン製造工・ホステス等の

＊神戸大学発達科学部社会環境論講座

単純職で働いたが、その後、現在の職場に転職した。現在、彼らの労働時間は週約35時間、それによる月収は約10万円に達する。彼らの多くは、現在の職場の労働条件に特に大きな不満は感じていない。ただし、事務職の職場では、一部に民族差別がある（第3章第2節参照）。

専門学校生の多くは、機械製造工・ホール・焼鳥調理補助・ホステス・レジなど単純労働に従事している[1)]。彼らは、来日直後から平均3回、最高10回、単純労働の枠内で転職を重ねてきた。彼らの転職は、来日直後は主に日本語の問題による解雇が多いが、その後は、高時給・社会経験を求めた主体的選択の結果が多い。現在、彼らの労働時間は、平均週40時間以上、最高72時間にも及び、しかも、夜間・日曜祭日の労働が多い。アルバイト月収は平均約16万円、最高30万円に達する。彼らは、現在の職場に、低賃金・仕事のきつさ・つまらなさ・長時間夜勤・民族差別・賃金不払い・年齢制限・セクハラ等、多様かつ深刻な問題を感じている。なお彼らの長時間労働は、もちろん違法である。しかし、彼らの多くは「労働時間の法的制限は実質的に空洞化している」と考え、特に法改正は求めていない。ただ彼らは、通勤時の交通事故など突発事故の際、不法就労の立場の弱さを痛感している[2)]。

＊「最初、喫茶店で働いたが、言葉がわからないからマスターにだめだと言われてすぐやめた。10日後、中華料理店のホールに決めた。ここは時給600円で安い。半年働いてやっと650円になった。仕事もきつい。一階と二階の間をいろいろ持って上がったり降りたり。体力の仕事だから。その後、スーパーの店員をして、今の日本料理店のホールに移った。移った理由は、時給が高いから。でも今の仕事も給料は安いし、怪我や病気の保障もない。それに、大きなストーブ・オーブンが3つもあって、お湯で洗う仕事も熱くてつらい。私は本当は体力の仕事はあまり好きでない。軽い仕事がしたい。でも日本では、こんな仕事しかない。外国人ということもあるが、日本には年齢の厳しさがある。オフィスの仕事は25歳以下とか。なぜ25歳以上ならだめなのか、わからない。年をとっていると経験もあるから仕事に役立つはずなのに。それが私達にとっては厳しい。労働時間は、法律では制限しているけど、実際には無制限。みんな24時間以上やる。こういう現状は入管も知らないわけがない」

「最初は中華料理店でホール。日本のいろいろな社会を勉強したいから、10回位転職した。皿洗いのときは、毎日4時間位皿を洗って、手の皮がむけた。今はホステス。労働時間が長く、夜勤がきつい。仕事は簡単ではないが、つまらない。本当はこの仕事はすきじゃない。ホステスを初めてやるときは、そういう所で働くのはよくないと思って迷った。学費と生活のために仕方なくやっている。ホステスは同じ時間働いてもたくさん貯金できるから。それに勉強があまり進んでいないから、せめてお金を稼がなければ何も得られない。ホステスのアルバイトをしていると、お客さんにいやらしい人がいる。仕事のときは紳士できちんとしていても、店では酔っ払いでいやらしくて、私達を触ったり、台湾で買春してきたことを大声で話したりする。しかもあとから聞くと、そのお客さんは、何かの日中友好の会の役員だというから、あきれてしまった。それと、以前、スナックの帰りに交通事故にあったときは困った。治療とか保障とか、水商売の帰りということがはっきりするとまずい。こっちは弱い立場だから。私のスナックの友人の中国人は給料を1カ月遅れでもらうが、時々払われない。労働時間の法的制限など嘘です。日本は学費や生活費が高いし、実際は労働しないと生活できない。時間制限は嘘だから無意味です」

「来日して最初の仕事はビル建築の土工。疲れた。こんな仕事、もういやだよ。4日間でやめさせられた。何か持ってきてくれと言われても言葉がわからない。その後、いろいろ変わって、今はパチンコ屋のホール。これは簡単な仕事で、誰でもできる。コインを出したり、掃除をしたり、お客さんから壊れたと言われたら直したり。技術も何もいらない。ただ、少しきつい。それと職場の日本人との関係がよくない。労働時間の制限は、言うだけでしょ。実際には制限していない。国がいくら制限しても、会社や店は、人手が足りなければ使うから。一紙空文。法律は決めているけど、紙の上だけ」

第2項　中国人就学生

さて次に、中国人就学生である。彼らの多くは、ホール・プレス工・ビル掃除・洗い場等、単純労働に従事している。彼らは、来日後、日が浅いため、転職は平均1回と少ない。転職は、日本語の問題による解雇が多く、自らの選択によるものはまだ少ない。労働時間は平均週40時間以上に達し、夜間や日曜祭日の仕事も多い。しかし、平均月収は12万円強にとどまる。彼らが職場で直面する主な問題は、日本語の障害、職場の日本人との関係、低賃金、セクハラ、民族差別等である。中には、国際電話をかけたとの濡れ衣で企業に給与のかなりの部分を没収された上、転職を禁じられるといった深刻な問題もある。また特に大卒専門職出身の就学生には、来日前との待遇のギャップでプライドを傷つけられている者もいる。そして中国人就学生の多くは、労働時間の法的制限の緩和を望んでいる。

＊「プレス機械製造の仕事。仕事はきつい。労働時間が長く、休みも少なく、夜勤がきつい。日本語がわからない。給料も安い。会社で中国人が隠れて国際電話をかけていて、それを自分が請求された。100万円位払わされている。毎月、何万かずつ払う。それを払い終わらないと、別の会社に移れない。自分は工場にいて、事務所にいないので、電話が受けられないことは、会社の専務も知っているはずなのに、まだ疑われている。自分もたまに受けたことがあるから、どこまで自分で、どこからそうでないかはっきり言えないし、『別の中国人のせいだ』とは言いたくないので、我慢して払っている。言葉が通じないので理解できないこともあるし。日本政府は労働時間の制限をもっと緩くしてほしい。労働を制限されたら、給料が少ないから生活できないし、学費もたまらない」（高卒労働者出身者）

「最初は、焼肉屋に勤めたが、『すみません』の意味もわからなくて、言葉の点で勤まらなかった。やめさせられた。今は中華料理店の洗い場。仕事はつまらない。時給も安い。夜勤もきつい。洗い場だけでなく、ホールや調理補助など別の仕事もさせられる。仕事中、言葉がわからなくて困っている。困るのは、『すけべ』な日本人。ホテルに行こうとか、一番困る。わからないふりをするけど。本当は建築設計など自分の能力と希望にあう仕事をしたいが、そういう仕事は探しにくい。私は中国にいたときいい仕事をしていた。今は就学生で社会的地位が低い。日本人はこのことを理解できない。労働制限をなくして、日本の会社で働かせる練習・チャンスをもっと多く与えてほしい。週24時間に制限されては、私達は自立生活ができない。安心して勉強できない。本当に勉強したい人は、法律で制限しなくてもあまり働かないで勉強する。勉強に影響がないなら、バイトをやってもかまわないと思う。私達は自分で働いて、自分で頑張りたい。法律で制限されなくても、自分で考えて勉強と両立させる」（大卒専門職出身者）

第3項　韓国人留学生・インドネシア人留学生・マレーシア人就学生

韓国人留学生では、アルバイトをしている者は少ない。している場合も、在日韓国人の子供の家庭教師、及び、日本人に韓国語や専門科目を教える講師・家庭教師である。労働時間は週4～8時間と短く、問題は特に指摘されていない。

インドネシア人留学生は、多くが何らかのアルバイトを経験している。それは、2つのタイプに分かれる。1つは、夏休み等に臨時に測量・運送・引越・掃除等の単純職で働くものである。ここでは、「仕事がきつい」等の問題がある。しかしあくまで臨時・短期間なので、問題は深刻化していない。そしてもう1つは、週1回2時間程度のインドネシア語家庭教師である。ここでは、特に問題はない。

マレーシア人就学生は、男性を中心に、ビル掃除の仕事をする者が多い。転職はない。彼らの労働時間は週20時間以下であり、彼らは「労働時間の法的制限は当然」と考えている。アルバイトによる月収は約6万円である。彼らが職場で直面する最大の問題は日本語の障害、次いで民族差別である。

表２－４　大学・大学院留学生／アルバイトについて

				職種	回数	時間	収入	以前、経験した職種	問題（×＝現職、△＝前職） A	B	C	D	E	その他
中国	国立大学	私立	理系	①なし				サウナサービス	△					
				②なし										
				③プログラマー			6	ホール・引越屋		△	×			
				中国語家庭教師										
				④なし										
				⑤水墨画講師	2	4	3							習慣の相違
			文系	⑥通訳	（不定期）			日１ホール	△				△	なし
				中国語講師	3	6								
				⑦ウェイター	3	12	7	ホール	×	×	×		×	疲れる
				⑧中国語講師	3	9~12	8	ホール	△					
				⑨中国語講師	1	2	1	物産展案内・ホール		△				なし
				⑩ホステス	4	12	10	パン製造工・コンビニ店員・	×				×	バイト法的制限
				中国語講師	1	2		ホステス・中語講師・ホール			病気怪			我の保障がない
				⑪中国語講師				中国語講師・ホール						なし
	私立大学	私費		①測量事務	6	5	4.5	ホール						民族差別
				②太極拳講師	1	2	12	ホール・パン製造工						民族差別
				中国語講師	2	4		中国語講師等						
				旅行会社業務	4	32								
				③中国語講師	1	4	3	中国語講師・ホール等						なし
				④薬品研究	6	18	10							なし
				⑤製本・コピー	5	30	12	ホステス						なし
韓国	国立大学	日本国費		③時間講師	4	8	5							なし
				④				韓国語家庭教師						
		私費		⑤数学家庭教師	2	1~5	3.5							なし
				⑥				韓国語家庭教師						なし
インドネシア	国立大学	日本国費		①測量関係	時々	20	時間位（不定期）							なし
				②肉体労働・運送	（夏休みだけ）									なし
		母国政府		③なし										
				④				引越屋・工場掃除		△		△		（前職：仕事汚い）
		国費		⑤母国語家庭教師	1		2							なし
				⑥母国語家庭教師	1	2	1.6							なし

注）回数・時間＝週当たり、収入＝月・万円／Ａ＝時間浪費、Ｂ＝仕事がきつい、
Ｃ＝仕事が少ない、Ｄ＝人間関係が悪い、Ｅ＝低賃金、
実態調査より作成。プライバシー保護のため、ケースＮＯは表毎に不統一。

表２－５　就学生・専門学校生：現在のアルバイト

			業種	従業員数	仕事内容	雇用形態	健康保険	月収	日平均労働時間	外国人労働制限 イ	ロ	ハ	その他	労働条件の問題 A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	その他	差別経験
中国	専門学校		①機械製造	20	機械製造工	a	健	5~6	3:30	○					×				×		×						
			②パチンコ店	8	ホール	b	国	16	7:00	○									×								×
			③レストラン	2	焼鳥調理	b	×	10	4:00			○									×						
			④音楽事務所	10	演奏	c	健	18	6:30		○	△									×						
			⑤パチンコ店	35	ホール	a	国	20	6:30		○				×					×							×
			⑥雑誌出版社	15	翻訳・中語家庭教	d	国	11	3:00		○															なし	
			⑦日本料理店	10	ホール	b	国	12	6:30		○			×	×		×				×	×				年齢制限	×
			⑧スナック	20	ホステス	b	国	30	7:00		○					×	×								×	交通事故	×
			⑨クラブ	15	ホステス	b	国	25	5:00		○						×		×								×
			⑩中華料理店	15	ホール	b	NA	12	4:30				意見なし						×								×
			⑪レストラン	35	レジ	b	国	15	6:00		○					×					×						×
	日本語学校	大卒以上	①電算機開発	120	電算機編成・修理	b	健	13	6:00	○			不合理						×	×							×
			②中華料理店	4	洗い	b	健	7~8	5:00	○				×			×	×	×	×	×				×	地位が低い	
			③中華料理店	15	掃除	b	健	16	5:15			○				×			×	×							×
			④中華料理店	NA	ホール	b	国	10	5:00	○			わからない				×							×		地位が低い	×
			パチンコ店	NA	ホール	b																					
			⑤電算機開発	200	プログラマー	e	国	6	4:00	○											×	×				地位が低い	×
			⑥台湾料理店	7	ホール	b	国	12	6:00	○			わからない				×								×		
			⑦広東料理店	7	ホール	b	×	13	5:00	○											×			×			×
		高校・中専卒	⑧喫茶店	20	ホール	b	国	15	5:30	○	○									×							×
			⑨機械製造	15	プレス工	b	×	20	12:00	○					×	×			×		×			×	×	電話代問題	×
			⑩日本料理店	9	ホール	c	国	8	5:00			○									×						×
			⑪喫茶店	3	ホール	b	健	10	4:30			○									×						×
			⑫郵便局	NA	手紙分類	b	×	15	5:00			○		×			×			×				×			×
			⑬中華料理店	20	ホール	b	国	12	5:00	○									×	×	×						×
マレーシア	日本語学校	男性	①ビル掃除	20	掃除	b	×	6	3:30			○														仕事難しい	
			②ビル掃除	40	掃除	b	国	6	3:00				意見なし				×		×			×	×			礼儀が違う	×
			③ビル掃除	40	掃除	b	国	7	2:30	○				×				×								条件曖昧	
			④ビル掃除	40	掃除	b	国	6	2:30			○					×		×								
		女性	⑤ビル掃除	NA	掃除	b	×	6	2:30	○											×					なし	×
			⑥なし									○							×								
			⑦ビル掃除	NA	掃除	b	×	2.4	2:30			○							×								
			⑧なし									○														なし	×
			⑨なし				国						意見なし													なし	
			⑩なし				国					○														なし	

注）雇用形態：ａ＝パート、ｂ＝アルバイト、ｃ＝臨時、ｄ＝常雇、ｅ＝短期社員
健康保険：健＝健康保険、国＝国民健保、×＝なし
労働時間制限：イ＝制限解除を希望、ロ＝無意味。実際には無制限。ハ＝正しい・悪いとは言えない。
Ａ＝仕事が少ない、Ｂ＝仕事がきつい、Ｃ＝労働時間が長い、Ｄ＝仕事が単純でつまらない、
Ｅ＝事前契約と違う、Ｆ＝日本語がわからない、Ｇ＝職場の日本人との関係、Ｈ＝収入が少ない、
Ｉ＝けがや病気の保証がない、Ｊ＝給料不払い、Ｋ＝休みが少ない、Ｌ＝夜勤がきつい
実態調査より作成。プライバシー保護のため、ケースＮＯは表毎に不統一。

表2－6　就学生・専門学校生：来日後の職歴

		来日後、初仕事 業種	職種	転職 回	職種
中国	専門学校	①機械製造	製造工	0	
		②中華料理店	洗い	5	パチンコホール→中華料理ホール→喫茶ホール→弁当製造工→パチンコホール
		③スーパー	品出し	1	レストラン焼鳥料理
		④音楽事務所	演奏	0	
		⑤建築	土工	4	製本工→牛丼屋製造→コンビニ販売→パチンコホール
		⑥出版社	翻訳	0	
		⑦喫茶店	ホール	3	中華料理ホール→スーパー販売→日本料理ホール
		⑧中華料理店	ホール	10位	日本料理ホール→レストランホール→パン屋製造→スーパー店員→乳酸飲料配達→喫茶ホール→掃除婦→カラオケ屋→服装メーカー製造→スナックホステス
		⑨パン製造	製造工	6	寿司屋ホール→中華料理ホール→乳酸飲料配達→スナックホステス→クラブホステス
		⑩ビン蓋製造	検査係	1	中華料理ホール
		⑪中華料理店	洗い	3	焼きそば製造→掃除婦→レストランレジ
日本語学校	大卒	①中華料理店	洗い	3	清掃夫→中華料理調理補助→コンピューター編成
		②焼肉屋	焼肉料理	1	中華料理洗い
		③中華料理店	掃除	0	
		④ビル掃除	掃除	3	中華料理ホール→パチンコホール→中華料理ホール
		⑤ビル掃除	掃除	1	プログラマー
		⑥台湾料理店	ホール	0	
		⑦台湾料理店	ホール	1	広東料理ホール
	高校・専門学校	⑧レストラン	洗い	3	レストラン洗い→レストランホール→喫茶ホール
		⑨プレス機械	プレス工	0	
		⑩ビル掃除	掃除	1	居酒屋ホール
		⑪喫茶店	ホール	0	
		⑫郵便局	手紙分類	0	
		⑬中華料理店	ホール	0	

注：マレーシア人就学生＝転職経験なし。
実態調査より作成。プライバシー保護のため、ケースＮＯは表毎に不統一。

表2－7　大学・大学院生／収入と支出・住居形態（千円）

			収入月額 A	B	C	D	E	F	支出月額 食費	家賃	光熱費	電話	新聞	研究費	学費 a	b	c	d	e	f	家族	旅行 イ	ロ	ハ	ニ	増したい支出 あ	い	う	え	お	か	収入増加 ①	②	③	④	経済悩み 1	2	3	4	住宅形態 A	B	C	D	E	室数	広さ 畳	同居人 配:夫妻 子:子供	風呂	便所	炊事場
中国国立大学	日本政府国費	①	178						75	40	13	32	0	5	0	○						○	○		○	○	○	○	○		○			○			○			○					2室	10.5	配・子	○	○	○
		②	178						35	17	5	21	00	110	○						—	○		○	○				○			○				○			○					1室	6	—	△	△	○
		③	170						35	10	0	15	80	5	0						—	○		○		○						○				○						○		1室	6	—	△	△	△
		④	178						NA	30	0	NA	NA	1	0	○					○	○		○								○							○					2DK	12	配・子	○	○	○
		⑤	180						10	10	NA	0	10	15	10	○					○	○		○	○			○				○				○			○			○		1室	NA	—	△	△	△
		⑥	180						55	10	20	10	不定	20	0	○					○	○	○	○		○						○					○		○					2室	12	配	○	○	○
		⑦	178						16	20	8	11	51	13	8	○					○	○		○	○							○							○					1室	6	—	△	△	△
		⑧	170						10	10	0	20	70	10	15	○					○	○		○	○	○	○		○			○							○					1室	4.5	—	△	△	△
		⑨	180						10	20	0	20	20	30	25	○					—	○		○	○				○			○							○					1室	6	—	△	△	△
		⑩	170						50	15	0	15	60	25	NA	○					—	○		○	○				○							○	○			○				1室	6	—	△	△	△
	中国政府国費	①	78						38	25	0	0	0	5	0		○				—	○		○		○	○							○				○	○					1室	5	配	△	△	○
		②	80						15	10	7	5	0	3	5	○					—	○				○				○	○			○	○	○					○			1室	6	—	△	△	△
		③	78		NA					55	30	NA	0	0	0	0	○				—	○	○			○							○					○						2室	12	配	○	○	○
		④	78							17	25	5	4	0	3	1	○				—	○				○							○					○						2室	10	配	○	○	○
		⑤	78				78			50	35	14	10	10	4	1	○				—	○	○			○				○			○	○	○			○						2室	14	配	○	○	○
	私費 理系	①	65							25	3	7	5	0	3	5	○		○	○	—	○		○		○							○				○	○			○			1室	NA	—	△	△	△
		②	100							5	3	65	0	10	5	0		△			—	○		○	○	○			○					○				○	○			○		1室	NA	—	△	△	△
		③		60						25	13	8	2	0	0	0			○		—	○		○		○							○				○	○			○			2DK	14.5	配・子	○	○	○
		④		(保証人援助80)						28	14	NA	9	0	0	0				○	—		○		○		○							○					○			○		1室	5	—	△	△	△
		⑤		30	100					60	20	10	35	10	0	0		○			—	○			○		○					○	○					○			○		2室	9	配	×	○	○
	文系	⑥	60	80						50	28	NA	4	10	0	0		○			—					○							○	○				○	○					2DK	NA	配	○	○	○
		⑦		70			52			60	25	NA	20	10	0	0			○		—					○							○	○				○	○					3室	20	配・友人夫婦	△	△	△
		⑧		80	40					30	20	5	3	0	3	0		○	○	○	—					○							○	○				○	○					2室	10.5	配・子	○	○	○
		⑨	40	120	70					60	25	NA	20	0	5	0	○		○		—					○						○							○				○	3室	20	配・友人夫婦	△	△	△
		⑩		100						30	25	10	10	20	5	10		○			—			○	○		○			○			○	○				○						1室	10	—	○	○	○
		⑪	50	68						16	24	8	11	4	7	2		○	○		—	○				○							○	○				○					2室	10	配	○	○	○
	私立大学 私費	①		150						10	0	2	36	0	10			○			—			○		○			○				○	○				○				○	2室	10	—	○	○	○
		②		120						10	0	0	10	10	0	30		△	○		—			○	△	○	○						○	○								○	1室	8	(日本人家族同居)			
		③	45	30	(170)					10	20	6	10	0	10	0				○	—		○	○	○		○						○	○				○					2室	10.5	—	△	△	○
		④		100	30					60	20	10	35	10	0	0		○			—	○	○				○			○				○						○				2室	9	配	×	○	○
		⑤		120						30	25	5	74	7	5	2				○	—		○	○	○		○			○				○	○				○					1室	10		○	○	○
韓国国立大学	日本政府国費	①	180					NA		NA	36	NA	NA	0	NA	NA	○				—	○				○	○											○			○		3室	18	配・子2人	○	○	○
		②	178							15	30	5	10	5	0	15	NA	○				—	○				○	○				○						○							18	—	○	○	○
		③	190	50						50	50	10	10	40	50		○					—	○		○	○	○											○							配・子	○	○	○
		④	178							35	3	8	55	0	7	0	7					—			○	○	○	○											○				○	1室	4.5	—	△	△	△
	私費	⑤		35				40		15	4	10	12	30					○		—	○				○			○			○				○			○					1室	6	—	△	△	△
		⑥	40						NA	10	15	3	3		10	0	○		○		—	○	○			○							○				○			○				2室	12	—	×	○	○
		⑦						150		55	25	30	5	0	10	0				○	—			○	○	○							○	○				○	○					2DK	12	配・子	○	○	○
		⑧						150	NA	55	19		4		0	0				○	—			○	○	○				○			○	○					○					2DK	15	配・子	○	○	○
		⑨	50			50			50	70	30	5	3	0	2	0				○	—	○		○	○	○											○			○			3室	16	配	×	○	○
イギリス	日本国費	①	170							35	19	10	15	20	5		○				—	○		○		○							○				○	○			○			3室	22	(配・子)	○	○	○
		②	136							30	10		60	10			○				—			○	○							○							○			○		1年	6	—	△	△	△
	大学院 母国政府国費	③	173							50	14	0	30	25	10					○	—		○	○	○							○							○			○		1室	6	—	△	△	△
		④	140							NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	○				—			○			○							○						○			○	1室	6	—	△	△	△
		⑤	125	20						10	10		15	0	5	0	○				—		○	○	○	○							○							○			○	1室	6	—	△	△	△
		⑥	140	16						10	10		20	20	5	5	○				—		○		○							○				○						○	1室	4.5	—	△	△	△

注：収入：Ａ＝奨学金、Ｂ＝アルバイト、Ｃ＝配偶者アルバイト、Ｄ＝配偶者奨学金、Ｅ＝仕送り、Ｆ＝貯金取り崩し、Ｇ＝その他
学費：ａ＝奨学金、ｂ＝政府処理、ｃ＝免除、ｄ＝アルバイト、ｅ＝両親の仕送り、ｆ＝その他／家族：家族のための支出：○＝あり、－＝なし
旅行：イ＝学会、ロ＝講座学科の旅行・ホームステイ等、ハ＝個人旅行で都道府県内、ニ＝個人旅行で都道府県外／
もっと増やしたい費目：あ＝研究（コンピューター購入を含む）、い＝旅行、う＝家賃、え＝食費、お＝趣味・娯楽　か＝その他
収入を増やす方法：①＝必要なし、②＝方法なし、③＝奨学金拡充、④＝アルバイト
経済的な悩み・問題：１＝研究資料・資材が高い、２＝生活面で高物価・生活費不足、３＝奨学金が貧困、４＝悩みなし
住宅形態：Ａ＝賃貸アパート、Ｂ＝公営住宅、Ｃ＝学生寮・留学生寮、Ｄ＝借家、Ｅ＝知人の家
実態調査より作成。プライバシー保護のため、ケースＮＯは表毎に不統一。

第３節　収支構造と諸問題

さて次に、収入・支出構造から、彼らの生活過程の特徴と問題を検討しよう（表２－７・８参照）。

第１項　中国人国費留学生

まず、中国人国費留学生は、奨学金を収入源とし、また学費を免除・政府間処理されている。

ただしこの中でも、日本政府国費と中国政府国費の留学生の収入・支出構造は大きく異なる。

即ちまず、日本政府国費留学生の奨学金は月額約178000円と高い。彼らは、食費46250円、電話代10625円、研究費12778円、娯楽費7500円を支出している。遠隔地への個人旅行や、家族のためにアートフラワー・水泳・塾等の支出をする者も多い。家賃については、単身者は寮にいるので安いが、家族同居者は、風呂・トイレ付の賃貸アパートで平均31750円を支出している。そして彼らは月平均51429円を貯金し、今後、コンピュータ購入を含む研究費・娯楽費の支出を一層増やそうと考えている。彼らの多くは、「経済的な悩みはない」、「収入増加の必要はない」と感じている[3)]。

＊「旅行は学会以外に東京・京都・北海道・東北を回った。旅行は年２回位で１回に最低８万円位は使う。子供を塾とスイミングに通わせている。妻はアートフラワーを習っている。現在、６畳と４畳半・家賃４万円のアパートに住んでいるが、少し狭いので引っ越す予定。本代は月２万くらい、娯楽費もけっこうかける。趣味としてアメリカの映画やビデオをよく見ている。国に帰るときのお土産代は10万ほど使った。今度、コンピュータを買おうと思っている。経済的には全然困っていない。奨学金で十分。来日前は日本の物価が高くて大変だと聞いていたが、来てみるとそれだけ収入も高いから、自由に便利に生活できる。後輩には、何

表２－８　就学生・専門学校生：収入と支出(千円)

			月収				主な使途(月額)							貯金		現収入			学費(万円)						☆	住居			室数	広さ畳	同居人	風呂	便所	炊事場
			A	B	C	D	a	b	c	d	e	f	g	総額	目的	イ	ロ	ハ	あ	い	①	②	③	④	⑤		A	B	C					
中国	専門学校	①	55				30	0	1	0	0	0	20	0	B C		○		82	8	○					×			○	1	6	弟	△	△	△
		②	160				30	31	0	10	0	0	45	900	D		○		63	NA	○						○			1	8	友人２人	×	○	○
		③	100		50		20	30	65	0	5	0	20	500	A B		○		61	10	○	○				×	○			1	6	友人・韓国人	×	△	○
		④	180				10	60	0	20	0	0	0	0			○		60	5					○	×	○			2	12	—	○	○	○
		⑤	200	105			30	30	0	NA	0	0	13	450	A E	○			100	20	○					×	○			1	6	妻	×	△	○
		⑥	110				25	30	0	5	0	0	50	450	A B	○			52	7	○			○		×	○			1	6	—	△	△	○
		⑦	120				30	30	60	20	0	0	0	0				○	61	15			○			×	○			1	4.5	—	△	△	○
		⑧	300				35	30	60	30	0	0	150	2000	C D	△	△		70	15	○	○				×	○			1	6	—	×	○	○
		⑨	250				50	30	40	20	10	0	100	200	B C	△	△		60	10	○					×	○			1	4.5	—	△	△	○
		⑩	120			80	30	40	10	NA	0	0	0	0			○		100	25				○		×	○			1	6	—	×	○	○
		⑪	150				40	30	0	0	20	0	50	400	A B		○		90	20	○			○		×	○			1	4.5	—	×	△	○
日本語学校	大学卒以上	①	130				30	20	50	3	2	0	25	200	A		○		50	5	○							○		1	4	—	△	△	△
		②	75		50		20	19	52	5	10	0	45	0	A		○		50	5			○			×		○		1	3.4	—	△	△	△
		③	160				30	24	10	20	10	0	50	100	A	○			56	7		○						○		1	4.5	—	△	△	△
		④	100				15	24	2	2	0	0	0	0				○	60	7			○			×		○		1	3	—	△	△	△
		⑤	60	60	60		15	60	30	10	0	0	0	0				○	36	NA		○				×	○			2	10	夫	×	○	○
		⑥	120	100			30	28	40	20	0	0	0	200	A B	○			48	7	○						○			1	6	夫	×	○	○
		⑦	130		50		35	35	40	20	5	0	10	300	A		○		56	7		○				×	○			1	6	夫	×	○	○
	高校・中専学校	⑧	150				50	20	0	0	5	0	30	500	A	○			50	7	○					×	○			1	4.5	—	×	△	○
		⑨	200				35	0	0	0	25	0	80	700	B	○			—	—						×			○	1	4.5	—	△	△	△
		⑩	80				30	10	0	10	10	0	20	120	A		○		46	NA	○					×	○			1	12	兄	○	○	○
		⑪	100				20	25	11	10	10	0	34	450	A B		○		50	6		○				×	○			1	6	—	×	○	○
		⑫	150				30	30	0	10	0	0	65	300	A		○		56	7		○				×	○			1	4.5	—	×	○	○
		⑬	120				10	15	21	5	10	0	50	150	A B		○		40	15			○			×			○	1	6	友人・ラオス	○	○	○
マレーシア	日本語学校	男性	①	60				15	20	0	1	0	0	30	50	B	○		50	NA				○		×		○		1	8	—	△	△	△
			②	60	1000	M$		30	19	0	0	15	0	0	0			○	50	8				○		×		○		1	3.5	—	△	△	△
			③	70	1度2500(学費含)			70	0	0	0	0	0	0	0		○		50	8				○	○	×		○		1	3.5	—	△	△	△
			④	60				20	19	0	0	0	0	20	0		○		50	NA				○		×		○		1	6	—	×	△	△
		女性	⑤	60			50	—	30	—	—	0	0	0	0	○			50	6				○		×	○			1	4.5	—	×	○	○
			⑥				60	30	19	—	—	0	0	0	0	○			50	3				○		×		○		1	4.5	—	△	△	△
			⑦	24				20	18	—	2	0	0	—	100	B		○	50	3				○		×	○			1	6	友人	×	△	○
			⑧				60	20	10	2	4	3	0	—	0	D	○		50	4				○		×		○		1	4.5	—	△	△	△
			⑨				60	20	19	—	5	2	0	0	0		○		50	8				○		×		○		1	4.5	—	×	△	△
			⑩				50	20	19	—	5	0	0	0	0		○		50	3				○		×		○		1	4.5	—	△	△	△

注)月収：A＝本人アルバイト、B＝配偶者アルバイト・奨学金、C＝保証人等援助、D＝両親援助・仕送り
主な使途：a＝食費、b＝家賃、c＝学習費、d＝衣料、e＝娯楽費、f＝送金、g＝貯金
貯金の目的：A＝学費をためる、B＝困ったときの用心、C＝母国にもち帰る、D＝他国に行く資金、E＝他
現在の収入：イ＝十分、ロ＝少し不足、ハ＝全く不足／　学費：あ＝授業料、い＝入学金、
調達方法：①＝日本でのアルバイト、②保証人・友人・兄弟の援助、③保証人・友人からの借金、
④＝両親の援助・仕送り、⑤＝母国での貯金・仕事
☆＝生活の問題として「物価が高い」
住宅：A＝賃貸アパート、B＝学生寮、C＝職場寮／風呂・便所・炊事場：○＝あり、△＝共同、×＝なし
実態調査より作成。プライバシー保護のため、ケースNOは表毎に不統一。

ももってこなくてもお金があれば、私のように生活しやすいということをアドバイスしたい」

「私は1日4回食べるので、食費は4万円以上。中国の親への国際電話は2万円。娯楽費は主に飲み会。あとはCDコンポとかビデオとか。煙草は1日1箱買う。カラオケもよく行く。毎月7万円位貯金できるが、旅行等で使うから、今、貯金は50万円位。旅行は夏休み・春休みで1回7日間で10万円以上かかる。1年半で40万円位。名古屋・京都・奈良・東京・北陸等に旅行した。もっと金をためてヨーロッパにも行きたい。本を買うのが好き。文部省の予算で必要な本は買ってもらえるが、図書館に登録しなければならず、自分のものにならない。だから本は自分で買うようにしている。物理や地学の最新情報の本も買うし、社会や哲学の本も買う。十分に買っている。それに論文とかで、こういうことをやっていると知ったら、僕は自費でも行く。それとパソコンを買って、ソフトの仕組みとか考えるのが楽しい。やりたいことがあって、お金がなくてできなかったことはない。奨学金の額はまあまあだから、特に増やす必要はない」

これに対し、中国政府国費留学生の奨学金は、月額8万円弱と極めて低い[4)]。彼らは、食費47000円と家賃光熱費30333円、つまり生活必要経費には、日本政府国費と同額、又は、それ以上を支出している。特に家賃支出が多いのは、寮入居者が少なく、風呂・トイレ付の賃貸アパートに家族と同居する者が多いためである。そこで彼らは、こうした生活必要経費以外の費目、即ち、電話代3750円、研究費3000円、娯楽費1500円等を、大幅に節約している。学会以外の旅行や家族のための支出・貯金は殆どない。総じて彼らの収入は、研究と生活の必要最低限である。彼らは、物価高に悩み、研究・旅行・電話等の支出を増やしたいと考えている。また収入増加のためにはアルバイトをするしかないと思っているが、研究時間との兼ね合いでそれも難しいと考えている。

＊「楽しみは、週末、夫婦2人で料理を作ったり、街を見物したり。お金がかかるから、買物はせず、ただ見るだけ。学会以外の旅行は、隣の市の知人の家に年3～4回行くだけ。旅行と言えるかどうかわからないけど。もっと旅行したい。京都に行って、昔の日本を見てみたい。貯金は無理。収入と支出は全く同額。残らない。本は高くてそんなに買えない。収入を増やすため、専門的なバイトがあればいいけど、実際には難しい。アメリカでは留学生に研究助手をさせて、お金をくれるそうだ。日本でもそうしてほしい」

「旅行は講座旅行以外は行ったことがない。せっかく日本に来たから、京都・神戸・東京に行ってみたいけど。日本は物価が高くて生活しづらい。専門書も新しいものは買えない。昔買った本をずっと使っている。生活はぎりぎり。貯金は無理。もし時間があればアルバイトしなければどうしようもない。でも、短い時間で自由にできるアルバイトはない。家賃がもっと安い所に引っ越したい。市営住宅に3年続けて申請したけどだめだった。どんどん物価が上がる。奨学金は変わらないのに。大学は、留学生の生活にもっと関心をもってほしい。例えば住宅。夫婦用の留学生の寮がないのはおかしい」

第2項　中国人私費留学生

さて次に、中国人私費留学生である。彼らの収支構造は、国立大学の理系大学院生、文系大学院生、私立大学生、そして専門学校生のそれぞれで大きく異なる。

まず理系大学院生には、安定した収入源がない。即ち、彼らの奨学金受給率は4割にすぎない。受給者の月額も平均82500円と低く、毎年受給できる保障もない。アルバイト収入がある者も4割にすぎず、その月額も45000円と低い。そこで、他の諸収入を含めても、彼らの平均月収は87000円と低い。そこで彼らは、電話代14000円、研究費4600円、娯楽費2000円はもちろん、食費28600円や家賃光熱費16900円など生活必要経費をも切り詰めている。家賃の節約は、主に寮や公営住宅への入居によってなされている。寮や公営住宅に入れない間、彼らの生活は特に厳しい。彼らは、高物価・生活費不足に悩み、旅行や趣味の支出のみならず、食費をもっと増やしたいと切望している。彼らの学費免除率は6割にすぎず、また毎年免除されるとは限らない。そこで彼らは、学費に備えて貯金しなければな

らないとも焦っている。彼らは、奨学金の拡充を切望している。

＊「今年は奨学金があたった。当たらないと思っていたけど当たったから、ちょっと楽になった。去年はバイトで貯金があったけど、入学金に全部使った。今年の前期の授業料は免除になって助かった。後期はまだどうなるかわからない。日本での生活は大変。授業料が免除なら大丈夫だけど、自分で払うとしたら大変だ。それに今、寮にいるが、10月からアパートに出なければならない。そうなると家賃も高い。旅行は、お金がないのでとても行けない。研究、旅行、食費、趣味の支出をもっと増やしたい。特に食費と本代。食費が足りず、食物も自由に買えない。買物をするときは、値段をしっかり見て、迷いながら買う。本代は一番切り詰めている。本は高いから。今年はもう収入を増やすのは無理。給与の奨学金は複数もらうことはできないし、文部省以外の日本の奨学金は金額が安いから、それだけでは生活できない。また中国人留学生は人数が多いから、奨学金をもらうのは他の国の人よりも難しい。不公平な感じがするが、しょうがない。日本は授業料が高いので、来年はもう少し高い奨学金がほしい」

「収入6万円で、支出6万円。貯金はできない。貯金できれば、アルバイトはしないよ。公営住宅で家賃は12700円。以前、アパートにいたけど、家賃が高くてどうしようもないので移った。公営住宅に入れるまでだいぶ時間がかかったので、お金をむだにした。研究費の支出はない。研究室の本を利用する。学費は貯金とアルバイトで全部自分で払った。来日前、授業料免除の申請を出したが、研究生には許可されなかった。旅行は講座旅行だけ。高いから。私費にとっては、お金が一番の心配。言葉はできるようになるけど、お金の解決が難しい。貯金してきたつもりだが、やはり全然足りない。食費をもっと増やしたい。日本政府は、経済大国として、奨学金を何とか充実してもらえないか。アメリカではもっと奨学金の種類が多い。日本は文部省だけで、それ以外に公的な奨学金が殆どない。文部省の奨学金も、どうやって決まるのか曖昧。成績も日本語もいらない。アルバイトで今以上に稼ぐのは難しい。時給が高くて疲れないアルバイトはない。かつて店で働いたときは、給料が安くて、いくら働いても生活費がまかなえなかった。後輩には、日本にきたら経済的に厳しい生活が待っていると言いたい。お金がなかったら来ちゃいけない」

さて次に、文系大学院の私費留学生である。彼らの主な収入源はアルバイトである。奨学金受給率は4割にすぎず、受給者の月額も5万円にとどまる。他の収入を含め、平均月収は12万円になる。日本政府国費留学生に比べれば低いが、中国政府国費や理系大学院の私費留学生に比べると高収入である。しかし一方、彼らは、家族との同居者が多く、食費46000円、家賃光熱費27600円と生活必要経費も高い。また彼らの学費免除率は6割にとどまり、しかも毎年免除されるとは限らない。彼らは、学費を貯める必要があるが、日常的・定期的な貯金は困難である。そこで彼らは、研究・趣味の支出はもちろん、生活必要経費もできるだけ節約している。彼らの賃貸アパート等の家賃は平均28000円で、国費留学生のそれに比べて安い。中には、他の留学生夫婦と4人で同居したり、夏休みに、時給の高い東京に「出稼ぎ」して学費を貯めている事例もある。彼らは、高物価・生活費不足に悩み、旅行など生活のゆとりの支出を増やしたいと考えている。また、奨学金の拡充を切望している。

＊「今年は民間の奨学金がとれたが、1年間だけ。来年はわからない。お金が一番困る。貯金もあったが、とても足りない。バイトしても時給が安い。実際、生活してみて、物価がとても高い。本だけは自分で買う。私費だからなかなか買えないが、研究のためにかけがえのないものだから。自分のお金では、趣味・娯楽はできない。旅行も行きたいけど、行けない。以前、食費を月1万円でやっていた。授業料免除の申請書類を出すとき、その食費を事務の人に信じてもらえなくて苦労した。収入を増やすには、一番いいのは奨学金。でも難しい。バイトは勉強の邪魔になるから、もうこれ以上したくない。アメリカでは、殆どの留学生が奨学金をもらえるらしい。日本も、もっと奨学金の種類を増やしてほしい。後輩には、日本に私費で来ると大変だ、十分な心構えが必要だと言いたい。いくら日本が豊かな国でも外国人はそんなに豊かじゃないし、楽じゃない。そういう考えをしっかりもってきた方がいい」

「悩みは生活費と学費。とにかくお金が足りない。他の私費留学生夫婦と4人で借家に住んでいる。半年間、東京に『出稼ぎ』して、アルバイトで学費をためた。旅行は自費では殆ど行かない。もっと旅行したい。自分のお金で娯楽はしない。友人におごってもらって遊ぶことがたまにある。本を買うお金を一番切り詰めている。本はできるだけ買わない。どうしても買うときは、1月3000円以内と決めている。来日前は、経済的にこんなに生活しにくいとは思わなかった。家賃がこんなに高いとは思わなかった。とにかく物価が高く、収入が足りない。日本政府はもっと奨学金を整備してほしい。文部省の奨学金は多すぎる。むしろそれを半分にして数多くの人に与えるべき。日本には経済大国の豊かさがあるのだから、もう少し経費を出して発展途上国からの留学生のために使った方がいいと思う」

私立大学の私費留学生の平均月収は153000円と高い。しかし、奨学金受給率は2割とさらに下がり、アルバイト収入の比重が一層高まる。彼らの学費は国立大学より高く、しかも免除率は低い。彼らは、食費30000円、家賃光熱費14500円等、生活必要経費を切り詰めている。特に家賃は、知人宅に無料で同居したり、公営住宅や低家賃の賃貸アパートに住むことで節約している。また彼らの多くは、学費・食費・旅行等でも知人の援助を受けている。こうした節約や援助で、彼らは月37500円の貯金、8000円の娯楽費を確保している。また遠隔地にも旅行し、今後、旅行や趣味の支出をさらに増やしたいと考えている。彼らもまた高物価や生活費不足に悩んでいる。しかし、他の私費留学生に比べれば、その悩みはあまり切実ではない。そして彼らは、収入増加のためには、奨学金の拡充もさることながら、それは事実上、無理であり、より現実的にはアルバイトを増やすしかないと考えている。

＊「最初はアパート暮らしで大変だったが、2年前から日本人の知人の家に同居させてもらっているので安くすむ。家賃は払っていない。昼は外で食べるが、朝夕は家で食べる。研究の本はあまり自分では買わない。先生や図書館から借りる。去年までは学費を払うために貯金できなかったが、今は毎月4万円ずつ家の人に渡して貯金してもらっている。学費は年間59万円で、去年と今年だけ3割免除。残りはアルバイトで払う。生活費の上に、学費を稼がなければならないから、大変だ。学費が免除になるかどうかは、後にならないとわからないから、一応、お金はもっておかねば。趣味や娯楽には3万円位使う。スキー・カラオケ・テニス・プールとか。旅行は県外にも何度か行った。旅行会社でアルバイトしているので、安い情報が入る。今後、もっと旅行したい。英語や法律の勉強のために、アメリカ・カナダ・オーストラリアにも行ってみたい。収入を増やすには、アルバイトをもっとするしかない。奨学金はこれ以上無理だから」

「知人の大家さんのアパートに安く住ませてもらっている。朝は食べない。昼は学食。夜はアルバイト先で食べる。だから生活費はわりと安くすむ。学費は、保証人が出してくれた。でも最初から頼るのはよくないから、自分でも学費分は貯金している。教科書や通学定期代もかかるし。趣味・娯楽の支出はあまりないが、たまにカラオケに行く。アルバイト先の人におごってもらうことが多い。旅行は保証人の家族と一緒に行った。今後、旅行や趣味の支出をもっと増やしたい。たまには服や靴も買いたいし、音楽会やカラオケの大会にも参加したい。学費を貯金しなければならないので、生活費は足りない。日本は物価が高い。奨学金があたればいいが、実際には難しいから、収入を増やすためにはアルバイトを増やすしかない」

専門学校の私費留学生では、奨学金受給者は皆無で、殆どがアルバイト収入となる[5)]。その月額は平均18万円（うち本人のアルバイト収入158636円）、最高30万円と極めて高い。彼らは、食費38182円、家賃31000円、学習費21545円、衣料光熱費12111円、娯楽費3181円を支出している。私費留学生の中では、家賃や学習費の支出が比較的多い。ただ、家賃が高いのは、学生寮や公営住宅がなく、賃貸アパートが多いこと、及び、アルバイトや通学の便を考慮して都心に住むことが多いことによる。従って、家賃が高くても彼らの住居は、平均6.3畳、半数以上は風呂がなく、トイレも共同と、大学・大学院生の住居よりむしろ劣悪である。中には、6畳に2人、8畳に3人で同居する事例もある。ま

た学習費は、学校毎に異なるが、特に服装関係では教材費が多くかかり、これも削ることのできない必要経費である。しかも彼らの授業料は年間平均681000円、入学金は135000円と、いずれも大学より高く、その上、学費免除はない。さらに前述の如く、彼らは、来日に伴って多額の借金をしており、その返済も必要である。総じて彼らは、収入も多いが、固定的支出もまた多い。そこで彼らは、学費・困ったときの用心・将来への備えとして月平均50909円、最高月額15万円を貯金している。現時点での彼らの貯金総額は平均445000円、最高200万円にも達する。また彼らは、娯楽・旅行等の出費を極力切り詰めている。彼らは、高物価に悩み、現在の収入を「少し足りない」と感じている。

＊「私のバイトで月20万、妻のバイトで月10～11万、合わせて30万位ある。でも生活費は足りない。アパートは6畳一間で便所共同、風呂なし、家賃3万円。この部屋は、風通しも悪く、夏はすごく暑い。扇風機を回しても、暖房機みたいだ。故郷の福建省も気温は高いが、日陰に入ると涼しい。日本は部屋の中でも蒸し暑く、裸でも寝られない。人間が住める部屋じゃないね。夕食はバイト先で出る。こんな生活でも、学費を除き、夫婦で15万円かかる。学費は、私の分が年間100万、妻の日本語学校が月4万。今度妻が帰国するので、その飛行機代もかかる。大変だよ。日本は衣食住、何でも物価が高い。それに私は来日するのに日本円で100万円位使った。日本にきて、こんなに金を使って、しかも中国に帰ったら仕事がなくなっているかもしれない。だから、将来のためにも、日本で働かなければならない。金はなかなかたまらない。今、数十万あるが、授業料でドカッと出ていく。本心から貯金したい」

「貯金は200万円ある。困ったとき、仕事がなくなったときに貯金がないとどうしようもない。身元保証人を紹介会社に頼むと、それだけで20～30万円かかる。このためにも貯金しなければならない。それに私は、将来、自分のお店をどうしても作りたいし、そのためにはお金と技術がどうしても必要だ。お金をためて、技術を身につければ、世界中でいろんなことができる。服装の研究をするためにカナダにも行きたいが、お金がないと、それもできない。だから、夜のホステスの仕事は辛いとは思わない。自分の力で働いて、たくさんお金をもらうのはうれしい。日本人は、『勉強のためにホステスの仕事はやめて下さい』とか、『夜のバイトはよくない』とか言う。でもそれは口だけの表面的な親切。本当に留学生の身になって考えたら、そんなことは言えないと思う。普通の仕事をやれば、生活は何とかできても、貯金はできない。それだったら、留学期間が終わった後、自分のやりたいことは何もできない。私は、生活費は厳しく切り詰め、ギリギリ最低限の生活を守っている。食費等は切り詰められるだけ切り詰める。それでも死ぬことはないから。でも学費はどうにもならない。学費は、授業料以外にも、材料代とか作図の画用紙代とか結構かかる。私は勉強と節約をかねて、自分でよく服を作る。買うと高いし、夜の仕事だから、服は毎日変えなければならないから。学費さえなければ、私達はずっと楽になる。勉強できる。今の日本では、勉強と仕事の両立は大きな矛盾だ。学費は、日本人でも大変だと思う」

第3項　中国人就学生

さて、中国人就学生の収支構造は、大卒専門職出身者と高卒労働者出身者で大きく異なる。

大卒専門職出身者は、アルバイト収入は110714円とやや少ないが、それ以外に、保証人の援助・配偶者のアルバイトや奨学金による収入があり、月収総額は156428円と高い。彼らはこの中から、食費32857円、家賃3万円、学習費22833円、衣料光熱費14286円、娯楽費3857円を支出している。総じて娯楽費を切り詰め、食費・家賃光熱費など基本的な生活費、及び、学習費の支出が多い。彼らの貯金は、主に学費の準備としてなされ、その月額は18571円、総額114286円と相対的に少ない。なお彼らの半数以上は日本語学校の寮に住んでいる。

他方、高卒労働者出身者のアルバイト収入は133333円とやや高いが、彼らにはそれ以外の収入源がないので、収入総額としては低くなっている。その中から彼らは、食費29167円、家賃16667円、学習費500円、衣料光熱費7500円、娯楽費1万円を支出している。貯金は月平均46500円、総額37万円であ

る。総じて、基本的な生活費や学習費を切り詰め、娯楽費や貯金を確保している。彼らの貯金は、学費の準備と困ったときの用心である。彼らは、賃貸アパートやアルバイト先の寮に住んでいる。中には、6畳1間に中国人とラオス難民の3人で同居する事例もある。

なお、中国人就学生の年間授業料は平均498333円、入学金は73000円で、これを彼らは、アルバイト、友人・知人からの借金、保証人の援助等で払っている。彼らの多くは高物価に悩み、現在の収入を「少し足りない」、「全く足りない」と感じている。

＊「貯金はできない。衣服は来日前に中国で買ってきた。日本ではできるだけ買わない。高いから。一番サービスのバーゲンのときに食料を買う。とにかく、安いもの、安いものを買って生活する。せめて貯金しないでギリギリに生活できるようになればいい。今は時給が低い。学費は保証人の援助を受けている。いつも保証人からもらうのは、ちょっと辛い。でも今はしょうがない。来日前、日本にきてこんな苦しい生活をすると思っていなかった。本当に残念だ」（大卒専門職出身者）

「貯金は毎月5万円。困ったときの用心と学費のため。授業料は40万円だから、まだまだ貯金しなければ。学費は、友人から借りて、今、バイトして返している。進学のためには、勉強だけでなく、学費もためなければ。日本はとにかく物価が高い。家賃が高い。家賃の礼金など無茶。今、バイト先の寮の6畳の部屋に、残留孤児とラオス難民と3人で住んでいる。生活費が足りない。来日前は、もう少しいい生活ができると思っていた。今の生活は予想よりずっと苦しい。経済の問題が一番難しい」（高卒労働者出身者）

第4項　韓国人留学生・インドネシア人留学生・マレーシア人就学生

韓国人留学生の収支構造は、国費（日本政府国費）と私費で異なる。

まず国費留学生は、月約18万円の奨学金に加え、一部に父親からの援助やアルバイト収入がある。彼らは学費を免除されており、食費43333円、家賃光熱費35500円、電話代8333円、研究費45000円等、各費目とも多く支出した上、月35000円を貯金している。また彼らは、寮や賃貸アパートに居住しているが、後者の場合、ふろ・トイレ付で平均3室・18畳と広い。さらに彼らは、遠隔地にも旅行し、今後、研究費と旅費の支出をもっと増やしたいと考えている。総じて彼らは、経済的に最も余裕があり、「経済的な悩みはない」、「収入増加の必要はない」と感じている。

＊「本を含め、研究費で7万円位使う。本は韓国にもって帰れるようにだいたい自分で買い集めている。たまにコピーも韓国に送る。5000円位かかる。趣味・娯楽は月5000～1万円位使う。旅行は京都に1週間位行って10万円。県内は安いからよく旅行する。年2回帰省するときは50万円位かかる。これからも年に2～3回は旅行したい。本ももっと買いたい。奨学金で生活費が保障されているので、そんなに大変ではない。金の問題については何も不便はない。健康のため、どんどん出費している」

他方、韓国人私費留学生の奨学金受給率は4割と低い。彼らの収入源・学費支払いの財源は、主に母国からの仕送りや貯金の取り崩しである。彼らの収入月額は113000円にとどまる。彼らは、食費に47000円を支出しているが、家賃光熱費は28200円と少ない。彼らの賃貸アパートは、国費留学生のそれより狭く、風呂がない場合もある。研究費・娯楽費・旅費も節約している。貯金も少ない。彼らは、高物価・生活費不足に悩み、奨学金の拡充や家族同居者用の寮の整備を切望している。

＊「父からの仕送り15万円で生活している。奨学金がほしいが、研究生はとれない。学費も仕送りしてもらっている。ぎりぎりの最低生活だと思う。どうしても足りないときは臨時に貯金を崩す。子供の小遣いもほんの少し。おもちゃを子供に買ってやりたい。旅行は、研修や学会だけ。個人では行けない。後輩には、国から奨学金をもらってから来いと言いたい。そうでないと、物価が高くて大変だ。今、市営住宅に入れて少し楽になった。以前は貸間みたいな所で、風呂・便所も共同、日当たりも悪かった」

「奨学金4万と貯金の取り崩しで生活している。生活費は月8万。娯楽費は全くなし。個人旅行も金がない

から全くできない。節約のために毎日自分で食事を作る。暖房は使わない。楽しみは別にない。たまに繁華街に行って、何かあるかなーと見る位。買わない。来日1年目は研究生で奨学金も取れず、学費免除もなく、特に大変だった。本が一番ほしいが、買うのは難しい。最初、妻子と一緒に来日しようと思ったが、お金や妻の仕事の関係で来られなかった。うちでは妻が働き、私には収入がないから。冬休みに家族を10日間呼ぶが、その間は暖房費がかかる。家族と一緒に暮らそうとすれば、家賃が高い。留学生の家族寮がほしい。実際、生活費が足りない。奨学金を増額するしかない。それ以外は考えられない」

インドネシア人留学生には、日本政府国費と母国政府国費がいるが、両者の奨学金の額にはそれほど差がない。大学院生で約17万円、大学生で約13～14万円である。その他、一部にアルバイト収入が2万円弱ある。彼らは、そこから、食費39000円、家賃光熱費14600円、電話代16500円、研究費7000円を支出し、35000円を貯金している。彼らは単身で主に寮に住んでいるため、食費や家賃は比較的少ない。母国への国際電話が多いので電話代が多い。娯楽費の支出は少ないが、しかし彼らは、自費で遠隔地に旅行し、今後も旅行を増やしたいと考えている。彼らは、他国の日本政府国費留学生と同様、経済的な悩みはなく、収入増加の必要も特に感じていない。

＊「奨学金が結構多いので、コンピュータを買った。家に国際電話をよくかけるので、電話代も15000円位かかる。本は自分で買う。将来の役に立つから。本代は別に1カ月30ドルもらえる。趣味はドライブ。日曜はいろいろな所に行く。県内はだいたい回った。旅行は、去年は県内外4回で16万円かかった。帰省には30万円以上、うち交通費が15万円位かかる。春には京都に行く。せっかく日本にいるから、もっとあちこち行きたい。タバコは2日で3箱。映画が好きだから、月2回は行く。食費は自炊すればもっと安いが、外食ばかり。別にお金はもっとほしくない。お金で困ったことはない」

最後にマレーシア人就学生である。男性はアルバイトが主な収入源で月額6～7万円、女性は両親からの仕送りが主で5～6万円の収入がある。収入額としては、いずれも極めて低い。しかし彼らの多くは、高物価に悩みつつも、今の収入で十分と考えている。なぜなら、彼らの場合、年50万円の授業料、及び約5万円の入学金は、男女を問わず、両親が払っている。将来進学する際の学費も両親が出す。彼らに貯金の必要はない。また彼らの多くは日本語学校の寮に住み、食費21875円、家賃19222円、衣料水光熱費1700円と基本的生活費が安くすんでいる。そこで彼らは、前述の低収入でも生活でき、また月9000円の娯楽費をも確保し得ているのである。

第4節　生活時間と諸問題

最後に、時間的側面から、留学生・就学生の生活過程の特質と問題を検討する（表2－9・10参照）。

第1項　中国人国費留学生

中国人国費留学生は、大学での実験・研究に1日の大半を費やしている。日本政府国費留学生は平均12時間8分（最高15時間）、中国政府国費留学生も平均10時間53分（最高13時間）、大学で研究している。彼らにとっては、研究の進歩が最大の喜びであり、半数以上は「もっと研究時間がほしい」と感じている。彼らは、研究時間が惜しいので、アルバイトをする気はない。ただし彼らの睡眠時間は、日本政府国費留学生が平均6時間53分、中国政府国費留学生が平均7時間45分といずれも比較的長い。またその他の時間、彼らは、風呂・食事の他、テレビや読書、友人との交流、スポーツ等をしている。総じて彼らは、まず研究に専念し、そうした研究中心の生活を継続するためにも、心身の健康を維持する睡眠・食事・風呂・余暇等の時間を十分に確保しているのである。

＊「８時から23時まで、大学で研究している。日曜も大学に来て、ずっと研究室にいる。休日も論文を読む。とにかく暇がない。私の専門は有機化学で、目標の化合物が最終的にできなければ何もならないから、いくら時間をかけても足りない。１年に１回は学会で発表する。データはあるけど、時間不足で、それ以上は難しい。日本にいるのは短い時間なので、遊びよりも研究をちゃんとやらないと。今まで、大学の中ばかりで生活してきた。もともと趣味は多いが、今は研究が忙しい。暇があったら旅行したいが、今は時間がない。時間がもったいないからアルバイトはしたことない。でもたまに、テニスやピンポンをする。音楽が好きだから、ＣＤやラジオもよく聞く」（日本政府国費）

「普通は９時から21時まで、遅いときは夜１時～２時まで実験している。日曜も午後は殆ど大学に出る。やっぱり実験がうまくいったときが一番楽しい。自由時間がないことについては考えないようにしている。うまくデータが出れば、それでいい。データが出ないと卒業できない。前に国費で博士が取れなかった人がいる。学位が取れるかどうかで帰国後の職が決まる。だから博士論文を書けるかどうかが一番の問題。収入を増やすにはアルバイトするしかないけど、そんな時間はないからどうしようもない。私の生活は研究室だけ。私は勉強をしにきたのだから。他の留学生にも、よく勉強しろと言いたい。留学するということは、ある目的をもってきたはず。だから、一生懸命勉強して、いい成績をとり、いい学生といわれる。それだけでいい。それ以外のことを考える必要はない。あき時間には、中国の小説を読んだり、友人としゃべったり、テレビを見たり、野球のラジオを聞いたり、散歩をする」（中国政府国費）

表２－９　大学・大学院留学生／生活時間

				1日平均時間（平日）					他の時間にすること（休日含む）							時間的問題			学会		
				労働時間	学校時間	睡眠時間	他の時間	うち自由	TV	読書	友人	家事	運動	娯楽		A	B	C	イ	ロ	ハ
中国	国立大学	日本政府国費	①	－	13:00	6:30	4:30	3:00	○	○	○				研究	○			3	2	2
			②	－	10:00	7:00	7:00	7:00	○	○				○	パソコン				1	2	4
			③	－	15:00	7:00	2:00	2:00	○	○				○		○			1	1	1
			④	－	15:00	6:30	2:30	なし							なし	○			2	2	6
			⑤	－	14:00	6:00	4:00	なし			○					○			1	1	2
			⑥	－	13:00	6:30	5:00	なし	○	○		○	○			○			1	1	3
			⑦	－	12:00	7:00	5:00	なし	○	○	○					○			1	2	2
			⑧	－	13:00	8:00	3:00	なし		○			○						1	1	1
			⑨	－	NA	7:30	NA	NA	○	○	○								0	0	0
			⑩	－	4:00	7:00	13:00	3:00	○		○		○			○			3	0	0
		中国政府国費	①	－	8:00	8:00	8:00	8:00			○	○			パソコンゲーム				2	2	3
			②	－	10:00	8:00	6:00	6:00	○		○			○					1	1	3
			③	－	12:00	8:30	3:30	なし	○		○				散歩・睡眠	○			2	0	0
			④	－	11:00	8:00	5:00	なし	○		○					○			2	2	3
			⑤	－	13:30	6:30	4:00	なし				○				○			2	2	16
		私費 理系	①		10:00	6:00	8:00	なし				○			睡眠		○		1	0	0
			②	－	11:00	7:30	5:30	なし				○			映画		○		3	3	6
			③	NA	17:00	7:00	NA	なし							なし		○		1	0	0
			④	－	10:30	7:30	6:00	なし					○			○			0	0	0
			⑤	2:00	12:00	6:00	4:00	2:00			○	○				○			1	1	3
		文系	⑥	3:00	8:00	7:00	6:00	なし		○						○	○	○	0	0	0
			⑦	4:00	8:00	5:30	6:30	日曜					○			○	○	○	0	0	0
			⑧	4:00	4:00	7:00	9:00	なし				○			育児・散歩	○		○	0	0	0
			⑨	2:00	3:00	6:00	13:00	日曜	○			○				○			0	0	0
			⑩	4:00	6:00	8:00	6:00	2:00	○	○	○	○						○	0	0	0
			⑪	3:30	6:00	6:30	8:00	なし				○				○		○	4	0	0
	私立大学	私費	①	9:00	2:30	8:00	4:30	通勤							なし				0	0	0
			②	10:00	8:00	5:00	1:00	なし							なし				0	0	0
			③	4:00	2:00	7:00	11:00	4:00	○	○					音楽・手紙				0	0	0
			④	8:30	6:00	6:30	3:00	なし							なし				3	3	10
			⑤	8:00	4:30	6:30	5:00	なし	○										0	0	0
韓国	国立大学	日本政府国費	①	－	15:30	7:00	1:30	1:30						○	散歩	○			3	2	3
			②	－	15:00	6:00	3:00	なし				○				○			2	1	1
			③	2:00	5:00	5:00	12:00	2:00	○						温泉				1	1	1
			④	－	14:00	7:30	2:30	なし			○	○				○			0	0	0
		私費	⑤	2:00	6:00	7:00	9:00	2:00	○							○			0	0	0
			⑥	－	13:30	6:30	4:00	なし				○				○			2	0	0
			⑦	－	14:00	6:00	4:00	なし							家族団欒・睡眠	○			1	0	0
			⑧	－	16:30	5:30	2:00	日曜							休憩	○			1	1	1
			⑨	－	16:00	6:00	2:00	なし							なし	○			1	0	0
インドネシア		日本国費	①	－	13:30	6:30	4:00	なし			○	○			手紙				3	2	3
			②	－	2:00	7:00	15:00	2:00	○										0	0	0
		母国政府国費	③	－	13:00	6:00	5:00	なし					○						0	0	0
			④	－	6:30	6:30	11:00	なし			○			○					0	0	0
			⑤	2:00	4:30	6:00	11:30	4:00	○		○				散歩				0	0	0
			⑥	2:00	4:00	6:30	11:30	4:00			○	○		○	手紙				0	0	0

注）時間的問題：Ａ＝多忙で自由時間がない、Ｂ＝バイトと勉強の両立が困難、Ｃ＝バイトで時間が浪費
学会：イ＝加入学会数、ロ＝参加学会数、ハ＝学会発表回数
実態調査より作成。プライバシー保護のため、ケースＮＯは表毎に不統一。

第２項　中国人私費留学生

中国人私費留学生の生活時間は、国立大学の理系大学院生、文系大学院生、私立大学生、そして専門学校生で大きく異なる。

まず理系大学院生は、平均12時間６分（最高17時間）と、国費留学生よりさらに長時間、大学で実験・研究をしている。アルバイトをする者は少なく、またしている場合も短時間である。睡眠は６時

表2－10　就学生・専門学校生：生活時間

属性	起床	家を出る	学校・仕事 開始	学校・仕事 終了	帰宅	就寝	学習時間	睡眠時間	☆★◎以外の時間（通勤・通学時間を含む）		休日にすること		母国での生活時間 学校の労働睡眠その他の時間
							☆	★	◎	時間	日課		
											A B C D E	A B C D E	A B C D E
専門学校	6:30	7:50	9:30	15:00	16:30	20:00	0:00	3:30	3:30	8:30	0	バイト・親戚訪問	7:00 8:30
	7:30	8:30	9:00	18:00	19:00	23:00	0:00	7:00	0:30	8:00	1	パチンコ	8:00 8:30
	7:00	7:30	9:30	15:00	17:00	22:00	0:30	8:00	1:00	8:00	2		7:00 8:00
	7:30	8:00	8:30	15:00	17:00	22:00	0:00	8:00	0:00	6:00	0		9:00 12:00
	7:30	8:00	9:00	18:00	19:00	22:00	0:00	4:00	2:00	7:00	2	シャワー	6:00 7:00
	8:00	9:00	9:30	16:00	18:00	22:00	0:00	6:30	0:30	7:30	1		8:00 11:00
	6:00	7:00	9:00	16:00	17:00	23:00	0:00	7:00	0:00	6:00	2		9:00 9:00
	6:00	7:00	9:00	16:00	17:00	23:00	0:00	7:00	0:00	6:00	2		8:00 8

立は難しい」

これに対し、文系大学院生は、週3回程度アルバイトをしており、アルバイトがある日の労働時間は平均3時間24分である。また彼らには既婚女性が多く、かなりの時間を家事・育児に当てている。そこで、アルバイトがある日の研究時間は平均5時間48分、睡眠時間は6時間42分と、いずれも短い。アルバイトがない日は、研究時間がやや長くなるが、それでも国費留学生や理系大学院の私費留学生に比べれば、かなり短い。彼らは、研究にもっと時間をかけたいと考えており、「アルバイトで時間を浪費し、研究時間が取れない」と悩んでいる。また彼らは、「研究と家事・育児に追われ、自由時間がとれない」ことにも悩んでいる。

＊「アルバイトがある日は、4時間位しか研究できない。その他の時間は、家事や子供の世話をしている。買物や保育園の送迎や細々したこと。休日は子供と近くの公園に散歩。個人の自由時間はない。アルバイトで時間がかかりすぎるのが悩み。アルバイトは中国語講師で1回2時間だが、往復時間を入れて3～4時間かかる。収入を増やそうと思えば、アルバイトの時間を増やすしかない。でもそれはしたくない。アルバイトと勉強の両立は本当に難しい。家事や子育ての時間はどうしても必要。削れない。子供に対していい母親になりたい。子供と一緒に遊んだり、おしゃべりするのは楽しい。勉強が進むのがやっぱり一番の楽しみ。不安は、アルバイトに時間をとられて、勉強が不十分なこと。今、ちょっと休みたい。ゼミがない日は少しゆとりがあるからうれしい。睡眠不足を補うために昼寝することもある」

私立大学の留学生は、ほぼ毎日アルバイトをしており、1日当たりの労働時間も平均7時間53分（最高10時間）と長い。一方、大学での勉強は平均4時間38分（最低2時間）、睡眠は平均6時間38分といずれも短い。中には、日常の睡眠時間が5時間、「試験のときは睡眠2～3時間」という事例もある。総じて彼らは、学習・睡眠・余暇等の時間を削り、アルバイトの労働時間を創出している。彼らはもちろん現在の生活を多忙と感じている。しかし、そのこと自体にはそれほど不満は感じていない。彼らにとって、こうした多忙さは、「やむをえないこと」である。また彼らは、アルバイトの仕事内容自体に一定の喜びを見いだしており、必ずしもそれと勉強との両立には悩んでいない。ただこうした多忙さは、彼らが事故や病気に直面したとき、その影響をより深刻にしがちである。

＊「アルバイトは9時間、勉強は2時間半。週3回、ゼミと講義の日だけ大学に行く。自由時間は通勤の途中だけ。試験のときは2～3時間しか寝ないこともあった。風邪をひいた時は大変だった。仕事も勉強も休めないから。疲れたときは休みたいと思うが、普段は特に不満はない。日本に留学しているのだから、中国にいるときのようなのんびりした生活は許されない。それに、アルバイトで、ワープロやコンピューターを使うのは楽しい。中国では体験したことのない仕事をたくさんやって、自分を鍛えられる。カラーコピーも私はうまい。お客さんから、あの人がうまいからお願いしますといわれるとうれしい。勉強でも仕事でも、何かできないことができるようになれば楽しい」

専門学校生も、ほぼ毎日アルバイトをしている。睡眠時間は6時間32分と短い。日常の睡眠時間が4時間半という事例もある。彼らは、中国在住時に比べても、余暇や睡眠の時間を大幅に削っている。そして彼らは確かに多忙ではあるが、そのこと自体に特に不満は感じていない。アルバイトと勉強の両立で悩む者も少なく、むしろ収入増加のためにアルバイトの時間をもっと増やしたいとさえ考えている。こうした点で、専門学校生の時間の使い方は、私費留学生に似ている。

ただし、専門学校では、大学と異なり、平日朝～夕方まで殆ど毎日授業がある。学校での学習時間は平均6時間32分と長い。そこで、専門学校生のアルバイトは平日は夜間に集中し、平均5時間25分と私立大学生よりやや短い。また休日にも終日、アルバイトする者が多い。

＊「日曜はできるだけ休まないでアルバイトする。平日は夕方と夜しかできないから。労働時間は長ければ長いほどいい。時給のせいで、時間が長いほど儲かるから。余暇時間はない。中国にいたときは、映画やテレビやディスコで遊んでいたが、今はそんな時間はない。本も読めないので夜2時に寝ることも多い。でもそれは仕方がない。日本にいる間は忙しいのは当然と思っている」

第3項　中国人就学生

中国人就学生の生活時間は、専門学校生のそれと似ている。即ち、学校での勉強時間は平均6時間19分、アルバイトの労働時間は平均5時間6分、睡眠は平均6時間49分である。彼らもまた、中国在住時に比べ、睡眠や余暇の時間を大幅に削っている。また平日は朝から午後まで毎日授業があるので、アルバイトは夜間、及び、休日に集中している。

なお、中国人就学生の中でも、大卒専門職出身者と高卒労働者出身者では、生活時間の点でやや差がある。即ち、大卒専門職出身者は自由時間に主に日本語の勉強や宿題をしており、また勉強とアルバイトの両立に悩む者が多い。これに対し、高卒労働者出身者は、テレビ視聴が自由時間の大きな位置を占め、また現在の多忙な生活を「やむを得ないこと」と受けとめ、特に不満を感じていない。

＊「9時～5時まで日本語の授業・実習がある。だからアルバイトは夜の仕事。帰宅後、11時～2時まで宿題。暇があれば、日本語の教科書や雑誌・本を読む。中国にいたときは、2時間半昼休みがあって、友人とトランプやゲームをしていた。日本にきてからはそんな余裕はない。日本での生活はスピードが早い。来日前は自由に生活できると思っていたが、勉強とバイトで自由な時間は殆どない。遊ぶこともできない。遊んだら、金もなくなるし、勉強の時間もなくなる。どうしたらいいかわからない」（大卒専門職出身者）

「自由時間はあまりない。テレビを見る位。日本の生活は忙しい。中国だったら、友人の家でビール飲んで歌ったりしたが、日本ではそういう時間はない。日本では普通でも夜10時半まで仕事、時々朝まで仕事する。これはつらいこともあるが、仕方ない」（高卒労働者出身者）

第4項　韓国人留学生・インドネシア人留学生・マレーシア人就学生

韓国人留学生は、睡眠や余暇の時間を削り、研究に専念している。彼らの研究時間は平均12時間50分に達し、睡眠時間は平均6時間17分と短い。アルバイトの時間も短く、余暇時間も事実上、殆どない。彼らは、「多忙で自由時間がない」と感じているが、しかし、そうした研究中心の生活に喜びを見いだし、「もっと研究時間がほしい」と感じている。こうした特徴は、国費・私費双方に共通する。

＊「研究は1日15～16時間。朝9時～夜10時か11時まで大学で研究する。家でも1時間位、文献を読む。自由時間は食事のときだけ。それ以外は睡眠とか掃除・洗濯。楽しいことは研究だけ。実験で思いどおりの結果が出た時が一番うれしい。実験は自分で時間を決めて自由にやれる。時間はいくらあっても足りない。わざわざ時間のかかるアルバイトはしたくない。すごく時間に追われている」（国費留学生）

「自由時間は殆どない。睡眠は普段は6～7時間だが、3時間位のときもある。日曜も、午前は掃除や洗濯、午後は大学とパターンを決めている。普段、大学にいるのは朝8時半～夜中1時。帰ると2時になってしまう。趣味もやる暇はない。ごくたまに家庭サービス。それ以外は寝てる。食事以外の時間は殆ど勉強しているという感じ。正直いって、研究以外に楽しいことはあまりない。研究だけが楽しみ。いい論文を書いて頑張りたい。ゼミの種類が多い。韓国にいたときはこんなに忙しくゼミをやったことがなかったが、こういう忙しさはいい。韓国では開かれていないゼミがたくさんある」（私費留学生）

インドネシア人留学生の睡眠時間は平均6時間25分と短い。その他の時間の使い方は、インドネシア人留学生の中でも、大学院生と大学生で大きく異なる。即ち、大学院生の研究時間は平均13時間15分と極めて長い。彼らは、その研究中心の生活に満足している。他方、大学生の学習時間は平均4時

間15分と短い。彼らの自由時間は長く、彼らは、友人との交流、雑誌・テレビ・本等を楽しんでいる。

＊「8時から19時まで大学にいる。家に帰っても2～3時間勉強する。アルバイトはしない。せっかく日本に勉強のためにきたのだから、勉強のことだけ考えたい。楽しいことは研究。レポートや論文ができたときが一番うれしい。自由時間は平日はない。留学生は忙しい」（大学院生）

「勉強は4～5時間。自由時間は、インドネシアの英語雑誌を読んだり、友人とゲームをしたり、話し合ったり。日本語や専門の勉強では、レポートが週6つあって大変なこともあるが、忙しくて辛いということはあまりない。勉強に追われているという感じはない。楽しく生活している」（大学生）

最後にマレーシア人就学生の学校での学習時間は平均7時間14分と、中国人就学生よりかなり長い。これは中国人がアルバイトに行った後も、彼らの多くが学校に残って学習しているからである。またマレーシア人就学生は、帰宅後の自由時間にも主に日本語を学習している。彼らは、来日後、余暇を削り、日本語の学習に専念している。なお前節で見た如く、マレーシア人就学生の中で、男性は主にアルバイトで生活費を得ていた。アルバイト時間は平均2時間53分である。そこで男性の睡眠時間は平均5時間50分と、女性の平均7時間15分に比べ、短くなっている。また男性では、テレビや読書、友人との交流等、余暇の時間も、女性より少ない。総じて男性は、日本語学習の時間は確保した上で、睡眠と余暇の時間を削り、アルバイトの時間を作り出しているのである。

＊「学校は9時10分から4時まで。アルバイトが5時から8時半まで。9時に帰り、夕食を食べ、シャワーを浴びて、日本語の勉強や宿題をする。寝るのは2時頃になる。自由時間はない。マレーシアにいた時は、自由時間にテレビを見たり、家事を手伝ったり、勉強をしたりしていた」（男性）

「学校から帰って、食事をして、7時半から12時まで勉強する。12時に寝る。自由時間にはテレビ見ながら、本を読む。マレーシアでは、炊事や洗濯は母にしてもらっていたので、もっとスポーツや読書ができた。日本の生活はそれに比べれば、忙しい。でも自習の時間は十分ある」（女性）

《補注》

（1）一部の専門学校生は、日中交流関係の職場で専門職のアルバイトをしている。「日中文化交流の音楽事務所に所属して、ロックや歌謡曲の公演・録音をしている。普段の給料以外に、公演のときはギャラが出る。フランスの記者が、ヨーロッパで私の音楽の仕事を紹介した。来日後、日本の会社の人がその記事を読んでいて、向こうから誘ってきた。日本でこういう仕事ができるとは思わなかったので運がよかった」、「友好団体で資料の翻訳をしている。仕事には恵まれている」。

（2）専門学校生の中には、来日前、副業的に技術を学んできた者もいる。しかしそれは、来日後のアルバイトには生かされていない。「来日前、装裱を3カ月勉強した。日本人はこれがすごく好きだから、日本に行ったら、これで仕事ができると言われて。来日後、実際には使っていない。チャンスがないし、町で見ると、日本の装裱は中国よりもきれいだから、あまり使えないなと思った」、「来日前、マッサージを練習した。足の指を押して病気を発見する。中国では200人位診察した。日本ではこういう仕事はできない」。

（3）日本政府国費留学生にも不満はある。「日本の奨学金は、比較からすれば少ない。中国なら月給の2倍が当然。研究にはお金が一杯かかるのだから。でも日本ではそういう基準ではない」。

（4）夫婦とも中国政府国費留学生の場合では、2人の奨学金の合計で、「残った分を貯金」、「月2～3回、国際電話」、「切手収集が趣味なので毎月日本の記念切手を買う」等、ややゆとりがある。ただしこの事例でも旅行は「学会のついでに見てくるだけ」である。

（5）専門学校生には、両親から学費援助・仕送りを受けている事例が2人いる。彼ら自身はいずれも中国籍だが、両親は香港・マカオ籍である。即ち1人は香港の伯母夫婦の養子となっている。もう1人の両親はマカオ籍で、戦争中、香港にいて、15年前に無料で子供を学校にやれるというので中国に戻った。なお後者の姉

はオーストラリア国籍である。

第3章　留学生・就学生をめぐる社会諸関係

本章では、留学生・就学生をめぐる社会諸関係の構造と問題を明らかにする（表3－1・2参照）。

第1節　日本人との社会諸関係の構造

まず、日本人との社会諸関係の基本的な構造をみる。

第1項　中国人国費留学生

中国人国費留学生の日本人との関係は、大学内部の、しかも研究面に限定されがちである。彼らは、大学の教員・学生に研究面では相談する。しかし、生活面では日本人には殆ど相談しない。もちろんこれは、彼ら国費留学生の場合、アルバイト・金銭・住宅等、生活面での深刻な問題が少ないことによる。しかしその結果、彼らの6割は「信頼して相談できる日本人」がなく、3分の2は「一生付き合える日本人」がいない。またそうした日本人がいる場合も、それは大学の教員・学生に限られる。

＊「結局、日本人とは、どんなに親しくしても『外国人』だ。中国人にはいろいろ話せても、日本人には話せないこともある。日本人とは、研究の話やちょっとした話はできても、一生の親友・信頼できる相談相手にはなれない。なかなかそこまで付き合えない。結局、わかりあえないですよ。研究の関係で、一生付き合っていくかなと思う日本人は何人かいる。でも自分の深く考えていることを話したりはできない。みんな勉強が忙しくて、人間的な交流をしていない。親友というより、研究の上で付き合っていける友人だ」（日本政府国費）

「講義のことは先生に、ゼミのことは学生に聞く。生活やお金のことは日本人には相談しない。研究室の人は勉強のことは熱心だが、生活のことは関心がない。一生つきあえる本当の友人は、日本人にはいない。学問研究のことで一生付き合うだろうという人はいるが・・・。自分のせいかも知れない。私、暗いから。積極的に付き合っていないから。私のこと、みんな無視しているみたい。友達作るのがうまくない。今まで研究が忙しくて、その他の活動は何もしてなかったし。それに留学生としてのプライバシーとか日本人の悪口とかもなかなか言えない」（中国政府国費）

なお、こうした日本人との関係の受けとめ方は、日本政府と中国政府の国費留学生でやや異なる。

即ち、日本政府国費留学生には、現状に不満を感じ、大学外・研究面以外での関係強化を望む者が多い。現に彼らの一部は、ホームステイ等の機会を生かし、大学外の日本人とも交流している。しかし、彼らもまた研究中心の生活を送っている以上、そのチャンスは極めて限られている。

＊「日本人の親友は本当にほしいけど、できない。日本人との付き合いが希薄で悩んでいる。うまくいかないわけじゃないけど、深く付き合うのが難しい。言葉の問題だけでなく、やはり日本人の学生は年齢的にも社会的な経験が少ないし、何か相談しても解決してくれるわけじゃない。せっかく留学したのだから、同じ国の人ばかりといると留学の意味がなくなる。日本にくる大きい一つの目的に友達作りがあるのに、研究ばかり。それに研究以外の交流が少ないから、日本人ならすぐわかる情報が、私達には非常に探しづらい。研究が忙しくて時間がないし、自分が積極的じゃないのかも知れないけど、交流の場があまりにも少ない。大学はもっと留学生と日本人の交流を主催してほしい。いろんなチャンスを使って、例えばピンポンをする時も、できるだけ日本人とやるようにしている。でもなかなか友達はできない。日本の先生や学生は、勉強の方ばかりで生活の面が狭すぎる。私は今まで大学の中ばかりで生活してきた。大学は特殊な世界で、外とはだい

表3－1　大学・大学院留学生：日本での社会関係

				相談相手 研究・学習 教	学	留	他	日常生活 教	学	留	家	他	バイト・金銭 教	留	バ	家	他	住宅探しのツテ 留	事	他	信頼できる相談相手 日本人 教	学	バ	他	母国人 留	他	他国人 留	教	一年付き合える日本人友人 教	学	外	他	無	会	教	外	手づる 事	他
中国	国立大学	日本政府国費	①	○	△				○								なし			学生	3	○	○			10	○		0					○B				○		
			②	○	△					○							なし		友好協会		0					3	○		0									○		
			③	○								なし					なし			教員	0					10	○		2	○								○		
			④	△	○					○							なし	○			0					0			0					×				○		
			⑤	○								なし					なし		○		0					3	○		0					×				○		
			⑥	○	○				○	○	○						なし			自分	3	○	○			3	○		0					×				○		
			⑦	○							○						なし			教員	0					2	○		0					×				○		
			⑧	○	△							事務					なし		○		5	○	職員・学外			3	○		0			○		事務				○		
			⑨	○		△				○							なし		○		3	○		学外		3	○		2	○								○		
			⑩	○	○					○							なし		○		0					3	○		0									○		
		中国政府国費	①	○	○				○	○							なし	○			5		○			5	○		1	○		△			△				○		
			②	○	○	○				○				○					○		5					5	○		0			○						○		
			③	△	○					○							なし	○			5	○	○			3	○		0					×				○		
			④	○	○							なし					なし			学生	0					2	○		0					×				○		
			⑤	○	○					○							なし		○		0					5	○		0					×				○		
		私費 理系	①	○	○							なし		○	○			○			3	○	○			3	○		0									×		
			②	○	○	△			○	○	○						なし		○		4	○	○			5	○		2	○		○		○				○		
			③	○	△							なし					なし	○			1	○				1	○		0			○	○					△		○	○
			④	○						○				○				○	○		2	○		学外		4	○		1	○								○		
			⑤	○	△						○				○			○			0					0			0					×				×		
		文系	⑥	○	△	△		△		○		バイト	△	○			学外			学外	5			○		2	○		2	○								×	○	○
			⑦			○	家族			○				○		○		○			0					2	○	妻	0			○							○		
			⑧	○	○	△						なし				○	学外	○		バイト	2			○		0	○		1		○	○						×		
			⑨		○	○	家族				○					○		○			0					1	○	夫	0					×				○		
			⑩	○	△	△			○		○	大家			○	○	大家			バイト	4	○		○		4	○		0			○						×	○	○
			⑪	○	○	△					○					○	学外	○		バイト	2			○		2	○	夫	0									○	○	○
	私立大学	私費	①	○	△	○	家族			○				○		○	学外	○	学外・姉		0					3	○	姉	0			○							○		
			②	○						○		保障人			○		学外			学外	4	○		○	学外	1	○		0									×	○		○
			③	○	△		事務			○		バイト			○					学外	4			○	学外	3	○		0			○						×			
			④	○	△				○				○					○			0					1	○	夫	0									×	○	
			⑤	○	△	○	家族			○		バイト				○		○		姉	5			○	学外	1	○	姉	0			○						×		○	○
韓国	国立大学	日本政府国費	①	○						○							なし			自分	1		○			2	○		0			○						×		
			②	○						○							なし	○			3	○	○			2	○		0				○					×		
			③	○						○			△				なし			NA	3	○	○			2	○	領事	0			○						×		
			④	○	△				○	○							なし	○	○		0					1	○		2	○		○						×	△	
		私費	⑤	○	○	○			○	○				○			学生		○		15	○	○			10	○		0			○						×		
			⑥	○	○					○				○				○			1		○			1	○		0			○						×		
			⑦	○	○	○				○		近所					なし	○			0					1	○		NA	○								×		
			⑧	○						○							なし	○			1	○				10	○		0					×				○		
			⑨	○	○					○				○				○		教員	2	○				0			0			○						×		
インドネシア	国立大学	日本政府国費	①	○	○		OB		○	○							なし			韓国留	2		○			3	○		0			○						○		
			②		○					○							事務			なし	10		○			0			0			○						○		
			③	○						○							なし		○		15		○			5	○		15	○		○						○		○
		母国政府国費	④		○				○								相談室			NA	15		○			5	○		15	○		○						○	△	
			⑤	△	○				○	○		相談室					なし		○		2	△				1	○		1	○								×	○	○
			⑥		○					○		相談室			○		相談室		○		2		○			2	○		0			○							○	○

注）教＝教員、学＝学生、家＝家族兄弟姉妹、バ＝バイト先、外＝大学外、事＝大学事務。
実態調査より作成。プライバシー保護のため、ケースNOは表毎に不統一。

表3－2　就学生・専門学校生：日本での社会関係

			身元保証人 ◎＝変化 A	B	C	D	E	他	信頼できる人 日本人	保	教	宗	ホ	他	母国人	前	学	家	他	緊急相談の相手 保	日	中	感謝する日本人 保	他	奨学金別	経済援助 保	友	家	バイト紹介 友	保	バ	他
中国	専門学校		①	○						5		○			0					○				○	仕事同僚	有				○			
			②		○					3	○				3	○			○				なし	○	姉の友人	有			○			姉友人	
			③				○			3	○		○		3	○			○			○		○			○			○			
			④	○						3		○			3	○					○	○			なし						○		
			⑤			○				0					1			○					学校		日語先生	有	○			○			
			⑥				○			5		○			5		○			○					隣家の人					○			
			⑦			◎		○		3		○	○		2	○			○			○			いろ	有		○			○		
			⑧				○			3	○	○			3			○	○			○			有				○	○	○		
			⑨	○						2	○	○			0						○	○			有	○			○	○			
			⑩	○						1	○				5	○	○						なし	○		有				○			
			⑪	○			◎			0					0								なし		なし	有							学校
	日本語学校	大学・高専・中専	①					○		2	○				20	○			○				NA		なし	有	○			○			
			②			○				1	○				3	○						○		○		有	○			○			
			③			○				0					5		○						姉		なし	有			○				
			④		○					1	○				1		○						なし	○		有	○			○			
			⑤	○						0					1			○					夫	○		有				○			
			⑥	○						2	○	○			1	○						○			なし			○					
			⑦	○						0					1			○					夫	○		有	○			○			
			⑧			○				0					3			○				○	兄		なし	有				○			
			⑨	○						5		○			3				○				なし		なし	有			○				
			⑩			○				2				○	4	○							NA		なし					○			
			⑪	○						2		○			3	○					○			○	職場店長	有	○			○			
			⑫			○				2					2				○				教師		なし	有		○		○			
			⑬			○				0					0							○			なし	有	○			○			
マレーシア	日本語学校	男性	①					○		0					1				○				なし		NA								
			②					○		0					1								なし		YWCA	有				○			
			③					○		0					0								なし		いろ					○			
			④					○		1	○				0								なし		NA					○			
		女性	⑤					○		2					20		○				○	○			なし	有				○			
			⑥					○		2			○	○	20		○				○	○	事務		いろいろ								
			⑦					○		1			○		20		○				○	○	事務		いろいろ					○			
			⑧					○		0					0								なし		なし	有							
			⑨					○		0					5	○							事務		なし								
			⑩					○		2			○	○	10		○				○	○	事務		なし								

注）身元保障人：A＝家族・親戚の知人、B＝来日前からの知人、C＝先に来日した友人・きょうだいの知人、D＝来日後の仕事の知人、E＝日本語学校の紹介・関係者。
信頼できる日本人・中国人の友人：保＝保証人、前＝来日前からの友人、学＝来日後の学友、バ＝アルバイト先の知人、教＝来日後の学校教師、宗＝宗教・ボランティア関係の人、ホ＝ホームステイ先、家＝配偶者・きょうだい。
経済的援助（父母を除く）：保＝保証人、友＝母国人の友人から借金・援助、家＝家族
実態調査より作成。プライバシー保護のため、ケースNOは表毎に不統一。

ぶ違うだろうと思っている。大学の外の日本人とももっと交流したい」

他方、中国政府国費留学生の多くは、研究に専念する以上、大学内での研究面に限定した交際は、当然でむしろ望ましいもの割り切っている。また彼らは、経済的理由からも、日本人との交流が困難と感じている。

＊「私は、今、視野が狭い。大学の外にはあまり出ていないし、研究以外のことで日本人と付き合っていない。それでいいと思っている。私はもともと人の前に出る方ではない。研究をして、学位を取り、卒業する。それでいい。私は研究にきたのだから。日本人のことを理解しようとかはあまり考えないようにしている。私はジャーナリストではないのだから。また、金も一つの問題だ。日本人と付き合うと金がかかる。コンパでも私はいつも1次会だけ。2次会があっても、私は金がないから行けない」

第2項　中国人私費留学生

中国人私費留学生の日本人との関係は、国立大学の理系大学院生、文系大学院生、私立大学生、そして専門学校生のそれぞれで大きく異なる。

まず、理系大学院生の日本人との関係は、国費留学生のそれと同様、大学内の研究面に限定されがちである。彼らは、国費留学生以上に日本語が不自由で、これが日本人とのコミュニケーションを一層希薄なものとしている。

＊「専門でわからないときは先生や学生に聞く。生活のことは誰にも相談せず、自分で解決する。日本人の学生は親切だが、あまり話しかけてこない。日本人と友達になるのは難しい。私は日本語ができないから」

しかし一方、彼ら理系大学院の私費留学生は、国費留学生と異なり、金銭・言葉・住宅等、生活面での悩み・解決課題を多く抱えている。そこで彼らは、それらの解決、及び、精神的バックアップのために、日本人との関係強化を切望している。現に彼らの一部は、大学内外の日本人に、アルバイトや金銭問題等の相談をしている。またそうした中で彼らは、「信頼して相談できる日本人」を平均2人形成し、過半数が「一生付き合える日本人」を有するに至っている。

＊「一生付き合える日本人の院生がいる。私のことに関心を示し、いろいろ助けてくれる。研究の方では先生も一生付き合える。友達を作るのは楽しい。もしこういう友人ができなかったら、留学は失敗だ。ただ、研究以外の悩み事を相談できる相手がもっとほしい。例えば、来年、寮を出なければならず、アパートを探したいが、相談できる相手がいない。研究室の人はいろいろ情報をくれるが、やはり生活の細々したことまでは相談できない。日本人と友人になれるようにしたい。今は寂しい」

これに対し、文系大学院生・私立大学生・専門学校生では、学校内の教員や学生との関係より、むしろ学校外の日本人との関係が中心になる。研究・学習に関する相談相手は教員や学生だが、彼らにとってより切実な、アルバイト・金銭・住宅等々、様々な生活上の相談相手は、主に保証人・アルバイト先・アパートの大家等、学校以外の日本人である。また学校の教員にも、生活上の相談をする者も少なくない。そして彼らは、学校外の日本人を中心として、「信頼して相談できる日本人」を平均約2.5人、また殆どが「一生付き合える日本人」を有している。しかも彼らの特徴は、理系大学院生とは逆に、「一生付き合える日本人」がいる者の方が、「信頼して相談できる日本人」がいる者より多いことである。これは、彼らにとってそうした日本人が、単なる悩み事の「相談相手」を超え、対等平等な友人となっていることを意味する。

＊「私には、日本人の友人が多い。相談できる。来日してすぐ、同じアパートの一階に住んでいる日本人の女の子と友達になり、一緒にアルバイトを探しに行った。彼女もアルバイトを探していた。最初、寿司屋に行っ

て申し込み書を書いたら、その場で採用された。2人で『信じられない』と喜んだ。今、一生付き合える人は、学校の先生、アルバイト先の人、大家さん等。日本人の友人が増えるのはうれしい。友達とプールや遊園地に行くのは楽しい。信頼できる相談相手は、保証人を含め、友人達」（文系大学院生）

「来日前からの日本人の友人がいる。中国で旅行ガイドをしていたとき、観光にきた日本人と、ずっと文通を続けていた。その中の一人が、私が私費で来ることを聞いて、困ったときにお金を出してくれた。感動した。その他にも信頼できる日本人はたくさんいる。こういう友人には本当にお世話になる。食事をおごってもらったり、一緒に遊んだりする。大学の先生も、勉強のことや、来日当初は通訳などのアルバイトの紹介でお世話になった。勉強のチャンスをくださったので一生感謝する」（私立大学生）

「日本語学校時代の先生に一番感謝している。通っていた日本語学校が途中でつぶれた。先生の給料も出ない。校長は、先生に『みんなやめて下さい』と言った。でも、私の担任の先生は、給料もらわなくても、このクラスを一生懸命教えて卒業させてくれた。卒業のとき、みんな泣いたよ。みんな一緒に昼間のカラオケの店に行って、歌って、先生に心から感謝しますと言った。来年のこの日、3月16日、もし日本にいれば、この店に集まろうと約束した。みんな泣いた。本当にいい人だった」（専門学校生）

ただし、こうした日本人との関係には、文系大学院生・私立大学生・専門学校生で微妙な差がある。

まず文系大学院生では、アルバイト先の日本人が特に大きな意義をもつ。彼らの主なアルバイトは、前述の如く、中国語講師である。そこで彼らは、中国・中国人に理解・関心のある多くの日本人と出会い、そこに友人を見いだしているのである。

＊「一番親しいのは、中国語講座の生徒。奥さんやサラリーマンの人。とても熱心に中国語を勉強している。中国にとても親しみをもっていて、同じ人間として付き合ってくださる。私も彼らと一生大事に付き合っていきたい。こういうアルバイトはつらくない。いろいろな人と知り合ういいチャンスだ。今の住宅も生徒の一人が紹介してくれた」

これに対し、私立大学生では、保証人とアルバイト先の日本人の双方が重要な役割を果たしている。

＊「一番世話になっているのは『日本のお父さん・お母さん』（保証人）。私が、中国でその夫婦の観光旅行のガイドをして知り合った。私のことを本当の子供のように可愛がってくれる。今、同居している。アルバイト先の人にも世話になる。太極拳の講師をやっていて、その生徒の中に英会話学校の経営者がいて、その人が、『うちの学校で中国語講師をしませんか』と言ってくれて、今、それもやっている。また太極拳の生徒の中国ツアーを企画するとき、旅行会社の人と知り合い、旅行会社にも勤めるようになった。主な相談相手は、保証人と学校の先生、それと太極拳の生徒。楽しみは、こういう日本人と付き合うこと」

「勉強や金銭のことは保証人に相談する。学費は、自分でも貯金しているが、保証人がかなり出してくれている。大変感謝している。日常生活のことはアルバイト先の店長に相談する。店長は、以前、私がホステスをしていたスナックに、お客さんとして来て知り合った。店長は、以前、日中友好団体で訪中したことがあり、今でも中国に関心がある。私の授業時間に合わせて仕事時間を決めてくれたり、夏休みには残業させてくれたり、いろいろ親切にしてくれる。こういう人達の支えがなかったら、私はとても大学に進学できなかった。保証人や店長とは一生付き合っていきたい」

そして専門学校生では、保証人との関係が、より一層重要になる。彼らの多くは、保証人から学費・生活費、アルバイト・住宅紹介等の援助を受けている。彼らの保証人は、来日当初は、家族・親族等を介した間接的な知人だったが、その後、アルバイト先で知り合った友人・知人に切り替えられている。その意味で、アルバイト先の人間関係も重要ではある。しかし、彼らのアルバイトは、前述の如く、単純労働で転職が頻繁である。彼らは、そこに定着して親密な関係を形成するというより、むし

ろ特定の保証人との信頼関係を重視している。

＊「保証人は、3年位前にアルバイトで知り合った親友にお願いした。ヤクルト配達の仕事をしていたとき、1年間毎日、同じ会社を回って配達し、取っていない人に『どうですか』と声をかける。それで友人になった。この保証人は、学費の3分の2、入学金も全部、出してくれた。私が『返す』と言うと、『気持ちだから遠慮するな』と怒る。入管に行くときも、いろいろお世話になる。以前は、保証人の家族と一緒に住んだ。日本語を教えてくれたり、どういう仕事をやっていいかとか、いろいろ相談にのってくれた。テレビ・ビデオも買ってくれた。私は、保証人のことを一生の恩人と思っている。だから、保証人の店が忙しいとき、何回も手伝っている。お金はいらない。これは私ができる恩返しだ。保証人の誕生日とかお盆とかには、中国の土産を小包で頼んで贈っている」

それだけに、こうした保証人がいない場合、専門学校生は苦境に陥る。前述の如く、彼らの一部は、斡旋業者に金を払って名義的な保証人を確保してきた。その場合、保証人から実質的援助は期待できない。また契約期間が切れれば、次の保証人を探さねばならないが、それは容易なことではない。

＊「来日時の保証人は、お金を払って頼んだので、顔も見たことない。今、その契約期間がきれた。新しい保証人は未定。専門学校の先生に頼もうと思っているが、もしだめだったら、他を探さなければならない。以前、勤めていた割烹のマスターに頼んだが、断られた。傷ついて、もうどうでもいい、帰国しようとも思った。保証人になってくれるだけ、お金を出してくれなくてもありがたいと思ったが、それでもだめ。冷たいものね、と思った。いい保証人がいる人と、そうでない人は、経済的にも精神的にも、全然違う」

またこうした保証人との関係は、アルバイト先の日本人との関係とは異なり、しばしば一方的な援助関係になりがちである。そこで専門学校生の中には、感謝とともに遠慮・葛藤も強い。

＊「私の専門学校には問題が多く、私の一番の悩みだが、それは保証人には相談しない。お金を出して学校に入れてもらったのに、もうこれ以上、迷惑はかけられない。できれば保証人を頼らず、自立したい。保証人は本代もくれるというが、私は遠慮している。それは、こちらから返せるものが今は何もないから。私は保証人から軽蔑されるのはいやだから、メンツを守りたい」

第3項　中国人就学生

中国人就学生は、来日後、日が浅く、日本語の問題もあり、日本人との関係は未だ希薄である。「信頼して相談できる日本人」がある者は半数にすぎず、それがある場合でも平均1.2人と少ない。彼らの保証人は、先に来日した友人・知人や家族の紹介によるもので、彼ら自身の親密な知己ではない。彼らは、アルバイト先でも、まだ日本人と親密な関係を形成し得ていない。

ただし、中国人就学生の中でも、大卒専門職出身者と高卒労働者出身者では、一定の差がある。

即ち、大卒専門職出身者は、比較的、保証人に恵まれている。彼らの保証人は、中国での知人、即ち、中国に出張したビジネスマン・観光客等が多い。比較的、階層も高い。彼らの多くは、こうした保証人から経済援助を受けている。また、彼らのうち、「信頼して相談できる日本人」がいる者の場合、その相手は主に保証人である。一方、彼らは、アルバイト先で接する日本人不熟練労働者とは、むしろ距離をおいており、その関係は希薄である。

＊「保証人は歯科医で、中国に観光旅行したときに知り合った。『もし日本語を勉強したいなら、日本にきなさい』と言ってくれた。生活が困難なとき、経済的に助けてくれた。心から感謝している。一生、忘れられない。いつか自立生活ができるようになったら、恩返しがしたい。それ以外の日本人との接触は少ない。アルバイト先でもアパートでも、日本人とは殆ど話さない。アルバイト先の日本人は、教養がない下品な人が多い。文化水準が低い人達だから。私は、彼らとは機械のように付き合っているから、向こうも親切ではな

い。仕事のこと以外、何もしゃべらないようにしている」

これに対し、高卒労働者出身者の保証人は、多くの場合、先に来日した友人・兄弟姉妹の紹介によるもので、主にそのアルバイト先での知人である。そこでは、「実質的援助は不要で、名前だけ貸してもらう」という条件での保証人依頼が少なくない。そこで、彼らの保証人は、せいぜい一部でアルバイトの紹介をしているだけで、それ以上の援助・関係は希薄である。そこで高卒労働者出身者では、保証人よりむしろアルバイト先で親切にしてくれた日本人との関係の方が強い。

＊「バイトの店長は、体の調子がよくないとき、薬を買ってくれたりした。信頼できる日本人は2人で、どちらもアルバイト先の人。保証人は、先に来日した友人のバイト先の店長。私とは直接、面識がなかったし、最初から名前だけの保証人の約束だった。だから、保証人には何も相談しない」

第4項　韓国人留学生・インドネシア人留学生・マレーシア人就学生

韓国人留学生の日本人との関係は、国費・私費を問わず、大学内・研究面に限定されがちである。彼らは、研究面では教員・学生に相談しているが、日常生活面では日本人に相談していない。

＊「先生や学生とは研究の話だけ。健康の不安があるが、先生には相談しない。弱みは見せられない。研究以外のことは、日本人とは話せない。日本人とはそこまでいかない。頼りになる先生はいるが、悩み事の相談ではなく、勉強のことだけ聞く。学生もいろいろおせわをしてくれるが、悩み事ではなく、決まりや事務的なことを話すだけ。研究室のもめごとや日本人との人間関係についての本当の悩みは、相談できない。先生や学生に、どこまで本心を言ったらいいのかわからない。本当の悩み事を相談できる相手は日本人にはいない」（国費留学生）

「先生や学生との話は主に学校や勉強のこと。個人的な話はしない。講座の人は、実験ばかりで、生活が見えない。だから日本人との交流を通した人間的成長はできない。人間的にはむしろ後退したと思う。普通（大学外）の日本人と知り合う機会は少なくて、大学関係者ばかり」（私費留学生）

しかし、韓国人留学生は、研究を通して大学の教員・学生の中に平均2.9人の「信頼して相談できる日本人」を、また学生の中に「一生付き合える日本人」を確保している。

＊「一生付き合える、信頼できる日本人は、先生や学生。研究のことは何でも相談できる。将来、大学の先生になったら、今の教授や助手と関係を保っておいて、自分の後輩や学生も日本にこれるようにしたい。先生や学生との付き合いは楽しい。それがうまくいかないと研究もやっていけない。一緒に飲みにいったり、ゼミで一緒に苦労したり、合宿やコンパをしたり。研究を中心とする人間関係の枠ができた」

こうした日本人との関係の受けとめ方は、韓国人留学生の中でも、国費と私費で異なる。国費留学生の多くは、現在の大学内部での関係に満足し、研究を軸とした日本人との信頼関係を形成している。他方、私費留学生は、確かに研究を軸とした日本人との信頼関係を培ってはいるが、しかし現状には必ずしも満足せず、より多様な生活上の諸問題を含めて相談できる日本人との関係を強く望んでいる。

インドネシア人留学生の日本人との日常的な関係は、やはり、大学内部に限定されがちである。しかし彼らは、研究面のみならず、日常生活・アルバイト・金銭・住宅等の面でも、教員・学生、そして事務職員に相談している。また彼らは、自由時間にも、学生と親密に交際し、その中で「信頼して相談できる日本人」を平均7.7人と極めて多く、また「一生付き合える日本人」を形成している。

＊「勉強でわからないときは隣の院生に聞く。レポーターのときも院生が手伝ってくれる。それでもわからなければ、先生に聞きに行く。たまに先生に呼ばれて、『わからないことはないですか。どうぞ遊びにきて下さい』と言われる。先生と院生のチームワークがとてもいい。皆の意見を参考にして論文を仕上げる。生活

のことも、院生や先生に相談する。信頼できる日本人は、同じ講座の院生。自由時間は、そういう友人の所に行って、インドネシアのことを話したり、スライドを見たり、ご飯を食べたりする。彼らもインドネシアに来たことがある。中には一生付き合える親友もいる。学会のときも一緒に共同発表した。とても仲良し。そういう友達との交際は楽しい。友達がいっぱいいるので、あまり困らない」（大学院生）

「勉強のことは日本人学生の友人に聞く。アルバイトや生活のことは、学生相談室で聞く。信頼できるのは、日本人のクラスメイトとチューターの学生。時々、一緒に映画を見に行ったりする。かわいいなと思う女の子がいて、その子にどうやって声をかけようかと話したら、『授業中に、ここの日本語どう読むんですかって聞け』と言われた。そういう友人とは一生付き合える。国に帰っても手紙を出したい。信頼できる日本人はだいたい同じクラスの人達で15～20人いる。友達がいっぱいいる。電話したり、部屋に訪ねてきたりしていろいろ話したりするのが楽しい。自由時間は友達の家でゲームや話をしている」（大学生）

他方、インドネシア人留学生の大学以外の日本人との交際は、それほど日常的・頻繁ではない。しかしそれでも彼らは、中国人・韓国人に比べ、留学生数自体が少ないため、各種友好団体や大学関係のホームステイやパーティに招待されるチャンスが多い。また、彼らのアルバイトは、短期集中的なものを除けば、インドネシア語の家庭教師である。彼らは、そうした場で、インドネシアや国際交流に関心のある日本人と出会い、良好な関係を作っている。

＊「夏休み、有志の招待で、全国から留学生が集まって4日間ホームステイした。楽しかった。日本の生活や習慣がわかった。家庭に入って親子みたいに話して、歓迎してもらえた。景色の奇麗ないろんな所に連れて行ってもらった。祭りに参加して神輿も担いだ。日本の和服の人形を作ったり、浴衣をきた。今でもホストファミリーと仲良くやっている。電話すると楽しい。それと、アルバイトでインドネシア語を教えている。アルバイトというより、かわりに日本語を教えてもらっている。その人は社会人だから話の内容が学生とは違う。私は社会経験があまりないので勉強になる。その人は、すごくインドネシアに興味がある。これから先、ガイドに頼らず、自分でインドネシアに行きたいと、インドネシア語を勉強している。それに日本とインドネシアの友好協会の交流会が月1回あって、友達がたくさんできた」

最後にマレーシア人就学生は、中国人就学生と同様、来日後の日の浅さ・日本語の問題があり、日本人との関係は未だ希薄である。彼らの保証人は、日本語学校の関係者やその紹介によるもので、彼らと個人的な交際は少ない。マレーシア人就学生には、「信頼して相談できる日本人」がいる者は半数にとどまり、その人数も平均0.8人と少ない。

特に男性の就学生では、そうした傾向が顕著である。これに対し、女性の就学生には、宗教関係のボランティアやかつてのホームステイ先等に、「信頼して相談できる日本人」がいる。ただその場合も、切実な生活問題に対する実質的援助は受けていない。

そしてマレーシア人就学生は、男女を問わず、日本人との関係強化を切望している。

＊「誰にも何も相談しない。自分ですべて解決する。日本人の友人はあまりできない。寮に住んでいるのはマレーシア人だけだし、日本語は難しいから。どうやって日本人と友達になるかが関心です」（男性）

「『日本のお母さん』はＹＷＣＡの人。どうぞマレーシアに遊びにきて下さいと思っている。相談があるときは、マレーシア人の友人や学校の受付窓口の日本人に聞く。もっと日本人の友人がほしい」（女性）

「私の家族はマレーシアで創価学会に入った。日本でも同じ宗教の人がたくさんいる。『日本のお母さん』はホームステイの人。もっと同年配の日本人の友人がほしい」（女性）

第2節　日本人との社会関係における諸問題

では次に、日本人との社会関係における問題点を明らかにしよう。

第1項　中国人国費留学生

まず、中国人国費留学生は、大学内部の日本人との関係に様々な問題を感じている。

まず彼らは、日本の大学教員の権威が高く、講座内の上下関係が厳格なことに問題を感じている。このため、ゼミ等で自由闊達な議論がしづらいことについては既に述べた（第2章第1節）が、それ以外にも様々な問題が派生している。

＊「日本の大学の先生は『偉い人』だ。中国で作った名刺に、先生の研究室の電話番号を入れると、『あなたの電話が私の研究室にかかってきたら迷惑です』と言われた。中国なら考えられない。学術的な議論をするときも、先生と学生の序列とか、遠慮とかが多すぎる。そういう面では、先生も助手も学生も、みんな平等に言いたいことを言い尽くすことが必要。でも日本ではそれが難しい」（日本政府国費）

「挨拶とか先生への接し方のことで、みんなの前でしかられたときはびっくりした。日本では、先生を尊敬する礼儀の知識が必要だ。中国の方が、先生と学生の関係がいい。中国の先生は教育者として心が広く、学生を育てる。学生は、就職・研究・結婚等、全部先生に相談する。教授とでも友達のように話せる。日本の先生は『偉い人』というイメージがあり、上下関係が厳しく、相談しづらい。ゼミでも、先生が最終的に意見をいって、それで終わり。日本では、先生に気に入られないとだめ。研究テーマも先生に合わせないとだめ。これでは、心の交流はできない。日本では、先生に聞いてから、学生に意見を聞くと、みんな先生と同じことしか言わない。私が先生にしかられたら、他の学生も、関係ないのに『うん、うん』と頷いている。学生の中での先輩と後輩も厳しい。中国では、そんなこと気にしないで、言いたいことを言っていた」（中国政府国費）

また下記の事例は、表面的には日本政府奨学金の性格をめぐる議論だが、より本質的には、日本の大学の講座における教授主導の上下関係に支えられた集団主義的強制の問題というべきであろう。

＊「日本の大学の先生の中には、我々に、『貴方たちは、なぜ働かないで、私達の税金からたくさんのお金をもらうのか』と言う人がいる。教授も助教授も院生も、みな、『貴方たち働かないで、日本の奨学金をもらうのはおかしい』と言って、講座の仕事をさせようとする。これが一番印象に残った。奨学金と給料は違う。それに私は講座から奨学金をもらっているのではない。それを同じに考えて、『これだけもらっているのだから、講座の仕事をしなさい』と言う。納得できない」（日本政府国費）

そして、こうした日本の大学・講座における集団主義は、中国人・外国人に対する排他性・特別扱いとも表裏一体である。

＊「日本人の学生は、初めのうちは優しいが、1カ月位たって慣れてくるとだめ。不親切になる。普通は、親しくなるともっと優しくなるはずだが、そうではない。多分、最初は外国人だから特別扱い、後は外国人だからだめと思うのだろう。先生も、留学生と日本人学生を同じに扱わない。考え方とか話し方とかの点で。平等にしてくれればいいのに。正直いって、日本に留学して帰国した人で、日本についていいことを話す人は少ないと思う。日本は留学生のために結構お金をかけている。でも、相手を同じ人間として、学生として平等に受け入れる態度がないと、本当の国際化はできない」（日本政府国費）

「日本人は、結構、排他的。私はいつも『外人』扱い。日本人と外国人をはっきり分けている。日本人は、外国人をわかろう、理解しようと努力しない。自分の価値観を外国人に当てはめ、それでものを考える。この人は日本社会に合わないみたいに言われる。『島国根性』というのだろうか。日本は単一民族だから、他

の習慣や価値観があることがわからないのだろう。日本人と付き合うのは非常に大変だ。いくら話を聞いてくれても理解できないし、もともと理解しようという気がないのだから。例えば、同じ講座の院生には、食事のときはスプーンを使わずに箸を使えとか、姿勢をよくしろとうるさい人がいる。その人が言うには、『郷に入りては郷に従え』。これが文化の違いだということを認めない」（中国政府国費）

さらに、中国政府国費留学生では、日本人の大学生・院生の中で侵略戦争の歴史認識が希薄化し、それが本音の話を阻害する一因になっていると感じている者もいる。

＊「学生と、第二次大戦のことを話すと気まずくなる。両方ともしゃべりづらくなる。学生は『自分は生まれてなかったから』と言う。日本人は、ダブル・スタンダードで、本当は悪いことをしたと思っていても、それを言わないのだろう。それがわかるから、私もそれ以上、追及したくない。話題を変える。でも本音の話はそこで止まる」（中国政府国費）

なお、中国人国費留学生には、入国管理局や不動産屋等、大学外の日本人との関係で、民族差別があると指摘する者も多い。ただし、その場合、本人の体験というより、留学生仲間等の体験の伝聞が多く、しかもそれは、欧米人とアジア人に対する日本人の態度の違いとして語られることが多い。

＊「僕は差別されたことはないけど、友達がアパートを探していて拒否された。日本人はアジア人と欧米人を自然に差別している。アメリカ人と中国人がいたら、みんなアメリカ人に目を向ける。入国管理局でもはっきり差別がある。僕は国費だからいいけど、私費の人は手続きにとても時間がかかる。職員は、また怪しい人がきたのかという態度をとる。欧米人は、すぐ手続きが終わる。日本政府は、中国人が気に入らないのではないか。例えば、留学生の奥さんとかご主人が来日して一緒に生活しようとしても、中国人だったら、なかなかビザが降りない。夫婦が一緒に生活したいのは当たり前だ。日本政府は、人道、人権とよく言うくせに、アジア人に対しては全く人道的じゃない。国費留学生なら、法務省の職員と喧嘩しても大丈夫。でも私費留学生は弱い立場だから、彼らに対しては、特に厳しい」（日本政府国費）

「アパートを探すとき、留学生は大変。うるさいとか、料理を作るときの煙・油が出るとか言われて、私も1回断られた。電話で『留学生です』と言うと、『こっちの都合で遠慮します』と言われた。同じ留学生でも、西洋人ならそんなことはない。日本人は、自分もアジア人なのに、アジア人を下に見ている。知人に在日朝鮮人の2世・3世がいるが、彼の話を聞いても、日本人は心が狭いと感じる。中国なら、日本人の残留孤児は、『あぁ、日系人か』という感じで、別に差別されない。中国にはもともといろんな民族がある。残留孤児は、日本の侵略のときに中国にきたわけだけど、それはその人達の責任ではないから。中国人は、大きな心で日本人の残留孤児を育ててきた。でも日本人は、朝鮮人を自分たちが連れてきたのに、それでも差別している」（中国政府国費）

第2項　中国人私費留学生

さて、中国人私費留学生のうち、まず理系大学院生では、前述の如く、大学内外を問わず、日本人との関係そのものの希薄さがさしあたり最大の問題である。それ以上の矛盾は、顕在化していない[1)]。

他方、文系大学院生・私立大学生・専門学校生は、前述の如く、大学外の日本人と親密な関係を有するが、それは様々な問題とも表裏一体である[2)]。そこには、次の3つの要素が絡み合っている。

まず第1は、民族差別とは直接には無関係な様々なトラブル、例えば、仕事上の行き違い、恋愛のもつれ、セクハラ、犯罪への関与等である。これは特に文系大学院生や私立大学生に顕著である。

＊「保証人に、愛人になれと迫られた。夜中でも私の部屋にきて、しつこく説得する。もう奥さんも子供もいる人なのに、『こんなに世話をしたんだから、愛人になれ』と迫る。怖かった。最後は、私が包丁を出して、殺して下さいと言った。他にも、危ないことはあった。弁当工場でアルバイトしたとき、職場の若い日本人

と盛り場に遊びに行った。するとその日本人は、道に立っている人を指して、『アンパンある？、と聞いてきて』と言う。私は不思議に思ったが、聞きにいった。相手は『ない』と言った。職場の日本人は、別の所でシンナーを買い、吸った。私にも『吸う？』と聞いた。その時は、『アンパン』がシンナーということも、シンナーを吸うということも知らなかったので、よくわからず、『いらない』と断った。今、考えると、もしその時、警察に捕まったらと思うとゾッとする。それから、道を歩いていると、後ろから車がきてナンパされた。その時は、わからないから、『ありがとう。近いから歩きます』と断った。でも、しつこく追いかけられ、最後は車から降りて取り囲まれた。怖かった」（文系大学院生）

「アルバイト先の太極拳教室の女性職員がお金を私に渡さない。会計係は私なのに。私が生徒から会費を集めようとすると、『もう払いました』と言われる。そんなことが何度もあった。その人は、私に敵意をもち、悪口を言い触らしている。私は、彼女に悪いことをした覚えはない。彼女は、私の保証人が経営する会社の社員で、私が保証人から可愛がられていると嫉妬しているのではないか」（私立大学生）

「親切にしてくれる女性が、『うちの息子と結婚しないか』と言ってきた。息子さんは私を気に入ったが、私は彼を好きになれなかった。それでお断りした。その女性はとてもいい人だし、親切にしてくれたので悩んだが、やはり結婚は相手のお母さんではなく、相手が大切だと思い、はっきり断った。その女性は、別に怒ったりしなかった。でも、その後、何となく付き合いづらくなり、交際が絶えてしまった。人間、深く付き合えば、どうしてもこういう問題が出てくる」（私立大学生）

第2は、特にアルバイト先で頻発する民族差別である。これは、欧米人とアジア人に対する態度の違いではなく、日本人と中国人の直接関係での差別である。この問題は、私立大学生や専門学校生の単純労働の職場で頻発している[3)]。

＊「アルバイトに行ったら人種差別をしみじみ感じた。職場の階層があまり高くない日本人は差別をする。例えば、日本人ならやらなくてもいいような、きつい仕事や他人に怒られる仕事をやらされる。誰も行きたくないお客さんの集金とか。『あんたなら怒られなくていいから』と。私はアルバイトだから、我慢して行かなければならない。アルバイトを見つけるときも、『中国人です』と言うと、『出稼ぎか』と軽蔑される。すぐに『外人は怖い』『中国人はだめ』と言われるので、やりにくい」（私立大学生）

「パチンコ屋のバイト先では外人は馬鹿にされる。きつい仕事は外人にやらせる。今、昼間、暑い。外人ばかり外に立つ仕事をやらせる。今日はこの外人、明日はこの外人。日本人にはやらせない。もういやだよ。パチンコ屋に勤めてる日本人、馬鹿で差別するから、付き合いたくないよ」（専門学校生）

「仕事先で差別がある。外国人は日本人より給料が安い。『外国人にはできない仕事があるから』といって、安くされる。本当は私達にもできるのに。日本人は、楽して高い給料をもらっている。バイト先で一緒に行った中国人の友達と中国語で話していると、店の人は『中国語を話すな。日本語で話せ』と言う。何を警戒しているのか。日本語がわからないといって、店のおばあさんが馬鹿にしたこともある。それで喧嘩して、店をやめた。日本では、実力に応じた仕事を探そうとしても、アパートを探そうとしても、外人というだけでだめになる」（専門学校生）

そして第3は、大学・入国管理局・郵便局等の公的機関、及び、不動産屋等による民族差別である。これは、主に欧米人とアジア人への態度の差として現れる。この問題は、中国人国費留学生でも指摘されていたが、私費留学生の場合、国費とは異なり、あくまで本人の体験として語られることが多い。

＊「大学の人間関係で、親切にもいろいろあることがわかった。無条件の親切もあれば、条件付きの親切もある。それに、親切にしてくれても、その底に、中国は貧しいとか、遅れているとか、日本の援助に頼っているとか、いばっている人もいれば、同じ人間として親しくしてくれる人もいる。特に英語が上手な人は、西洋人とだけ付き合い、西洋人と東洋人をわけて考えていることが多い。西洋人が上で、アジア人は下だと思っ

ている。彼らのいう『国際化』は、本当の国際化ではなく、独特の色彩がある。つまりそれは、平等な人間として手をさしのべあうのではなく、あくまで上下関係。これではいつまでたっても、同じ人間ではなく、『ガイジン』だ。西洋人のように『上』扱いされても、まして東洋人や黒人のように『下』扱いされても、『ガイジン』扱いはいやなものだ。『ガイジン』という言葉は、日本語が全くできない人でも覚えてしまう」（文系大学院生）

「入管職員は、アジア人を差別する。欧米人のビザは優しいのに、アジア人にはイヤーな顔して、本当にいやだよ。入管の人間が中国にきたら、殺されるとみんな言ってるよ。それと、郵便局の職員にも差別された。中国に金を送ろうと郵便局に行った。すると職員が変な顔をして『あんたはA区に住んでいるのに、どうしてB区で送金するんだ』と聞く。『私の学校が、この近くです』と答えると、『どこの学校だ』と聞く。『お前、関係ないでしょ』と喧嘩したよ。日本人や欧米人にはこういうこと絶対に聞かないでしょ。いやだもう」（専門学校生）

「入管に行ってビザを取るとき、差別された。私、留学生のビザ、許可されず、申請中でしょ。一回、一人で行ったら、なぜ申請中なのか、わけを教えない。それで保証人を連れてもう一度いったら、今度は教える。私の問題なのに、なぜ外国人が一人で行くと教えないのか。私だけでなくみんな、入管は日本人に対しては優しいのに、外国人が一人で行くと厳しいと言っている。外国人でも、欧米人に対しては卑屈に優しい。アジア人に対しては、職員の言葉も表情もきつい。日本人は、欧米人を一番大事にして、アジア人・中国人を軽蔑する。一般人の態度だけでなく、政府の機関や法律そのものが人種差別をしている。島国根性というのか、閉鎖的で排他的。心が小さいと感じる」（専門学校生）

第3項　中国人・マレーシア人就学生

中国人・マレーシア人の就学生では、アルバイト先での民族差別・偏見が最大の問題である（第2章第2節）。ただしその受けとめ方は、中国人とマレーシア人、また中国人の中でも大卒専門職出身者と高卒労働者出身者で若干異なる。

即ちまず、中国人の大卒専門職出身者は、民族差別の原因を、アルバイト先の日本人労働者の「文化水準の低さ」に見いだしている。しかも彼らは、母国と日本の自らの職業的地位のギャップと重ね合わせる形で、民族差別を感じている。

＊「今、私は日本語がまだできないから、文化水準の低い、地位の低い、アルバイト先の日本人としか接しられない。彼らは文化水準・素養が低いから、中国人を軽視する。中国の文化がわからない。彼らの目から見ると、中国はただの貧乏な国。だから私達と友好に付き合わない。職場でも、店員は、あまり挨拶せず、無視したり、ばかにする。このことは、私は本当に悲しい。女性従業員は中国人に対していろいろ問題があった。私は、話すことが難しいし、初めての仕事だからいろいろ教えてもらいたかったが、教えてくれない。本当にばかにする。私は怒った。来日して時間がたっていないし、日本人全体を見ていないから何とも言えないが、低い階層の日本人は、中国人に偏見・排外の思想をもっていて、真心で付き合わない。中国人をみんな出稼ぎと見る。口ではっきり、金儲けのためにきているのだろうと言うし、口には出さなくてもそういう感じで見る。そう見られるのはつらい」

これに対し、中国人の高卒労働者出身者では、アルバイト先での民族差別は、「文化水準の低い」低階層の日本人や自らのプライドの問題ではない。むしろ、同じ職場で働く中国人と日本人との間の客観的・直接的な差別待遇の問題である。

＊「仕事先で差別がある。中国人はだれでもそうだ。日本語がわからないから、いやな仕事は全部こっちに回される。こっちはそういうことはわかっているが、日本語がまだだめなので言えない。日本語ができないと給料も低くなる。同じ仕事をしても、日本人と時給50円の差がある。アルバイト先の日本人は、私がわから

ないと、ののしる。まちがったことをしても、すぐ怒って説教する。それに、土曜とか日曜、休みを取りたいと言うと、店長は『あー、困る。頭痛い』と嫌がる。日本人の店員がそういった時には、店長は絶対に言わない。本当はみんな休みたいけど、中国人は休めない。仕事を探すときも、はっきり不平等がある。多くの企業は、中国人を排除している。要するに、中国人を日本人と同じ人間と扱っていない」

そしてマレーシア人就学生の受けとめ方は、中国人高卒労働者出身者と似ている。ただし、前述の如く、彼らのアルバイトは、中国人に比べ、時間も短く、仕事内容の面でも日本人との接触は少ない。そこで、矛盾は中国人ほど顕在化していない。

第4項　韓国人留学生・インドネシア人留学生

韓国人留学生は、大学の教員・学生との間で確かに研究を軸とした密接な関係を形成しているが、しかし彼らは同時にそこに排他性・特別扱いを感じとっている。

＊「大学の日本人は、仲間同士の境界が固い。親しいように見えるが、重要なことがあれば留学生を分ける。日本人同士ならすぐ同じになるが、留学生はいつまでも別。嫌っているわけではないが、いつまでも特別扱いがある。留学生は、何か期待されているようだ。ただ教えるだけでなく、その分、何か元を取らなければという感じがある。特に国費留学生には、それをはっきり言う先生もいる。先生の関心に合わせて研究することが、何となく期待されている」（日本政府国費）

「大学の日常生活で感じるのは、仲間意識の強さ。よっぽどオープンな人でなければ、自分から話しかけてこない。コンパなんかでも話しかけられない。親しい日本人同士で楽しく盛り上がっている。何か、特別扱いというか、別の目で見られているのを感じる」（私費）

また韓国人留学生は、大学以外の場、特に住宅捜し等で、欧米人とアジア人に対する日本人の態度の違いという形で民族差別を感じている。

＊「大学の中では、差別は感じなかった。でも最近、家を探していて、感じた。不動産屋に電話したら、『国はどちらですか』と聞かれ、『韓国です』と言ったら、だめと言われた。よく言われていることだが、そんなことは本当はないと思っていた。同じ留学生でも、欧米人なら、そんな問題はない」

そして韓国人留学生は、こうした特別扱いや排他性の背景に、一般的なアジア人蔑視に加え、侵略・植民地化の歴史に根差す日韓の特殊な関係をも感じ取っている[4)]。

＊「民族差別というより、韓国人は、日本人から特に意識されている。親切にされても、差別されてもそうだ。日本人といると、自分が普通の『外国人』ではなく、韓国人であるということを特別に感じる。どこまでそれを意識するかは別にして、やっぱり日本と韓国の特別な関係があるからだろう」

最後に、インドネシア人留学生は、その主な関係である大学内部の日本人との間では、それほど問題を感じていない。彼らは、大学以外の遊びやアルバイトの場で、欧米人とアジア人に対する日本人の態度の違いという形で民族差別を指摘している[5)]。そして彼らの民族偏見・差別は、不法就労・出稼労働者のイメージが重ね合わされた形で現れている。

＊「今までそんなに差別はないけど、アジア人とアメリカ人に対する態度の違いはおもしろい。例えば、パーティの時など、アメリカ人と一番話したがる。ディスコでも、日本人が『何人ですか』ときて、アメリカ人のときはワーッと喜ぶ。僕の隣に座ってインドネシアと聞いてがっかりしている。運送のアルバイトをしたときも、一緒に働く日本人は、お前は俺より下だみたいな態度で、話が堅くて。大学の中ではそんなことはないけど、街に出たときは、差別や偏見があることは誰でも知っている。僕らは、不法入国・不法就労の悪

いイメージで疑われる。僕の友人のフィリピン人留学生も、いつも疑われていやだと言っている。出稼ぎにきたのではないといくら言っても、信じてもらえない。ステレオ・タイプはやめてほしい」

《補注》

（1）理系大学院生の一部は、大学外の日本人による民族差別を感じている。しかし彼らは、大学外の日本人との関係にあまり関心をもっていないので、差別もそれほど切実には受けとめていない。「大学内の知識のある人は大丈夫だが、そうでない人は、中国人は貧乏だとか、怖いとか、中国はだめだとか思っている。でもそういう人は多くない」。

（2）ある文系大学院生は、「差別されているとまでは言えないが、日本人は中国人にあまり関心がないようだ。中国だと、語学を教えにくる外国人をみんな好きになるし、中国の先生の2倍も3倍も高い給料を払う。年に何回かただで旅行できるように配慮している」と語る。

（3）文系大学院生には、自らの差別ではなく、子供の保育園や学校での差別を危惧する者もいる。「子供が差別されないか不安です。子供にはみじめな思いをさせたらまずい。子供には、中国と日本の2つの国の文化の経験があるのだから、一番豊かではないかとお説教しています。でもそれは大人からの見方であって、子供がどう感じているかはわからない。今まで、子供はいじめられなかったけど、日本の学校ではいじめとか登校拒否とかあるから心配しています。中国なら、帰国子女とか違う経験をしている人は大切にされる。でも日本では、人と違うことがいじめの理由になる。心配です」。

（4）韓国人留学生の中に、次の意見もある。「日本人に排他性は感じない。マスコミのいうことを鵜呑みにする必要はない。僕は人間を判断するとき、個人として判断する。日本人とか韓国人とかではなくて」。

（5）インドネシア人留学生には、寮の日本人学生との共同生活に不満を感じる者も多い。「日本の学生は寮を奇麗に使わない。自分の家のように奇麗に使わないと、引っ越したくなる」、「うるさい。もう少し夜など静かにしてもらえないか。夜まで騒いでいる」。